

防衛大学校同窓会機関誌

# 小原台だより



Vol. 7

平成12年1月1日  
発行 防衛大学校同窓会

編集 熊倉惟晴 今泉一郎 吉田修  
印刷 (株)エイコープリント



# ご挨拶



防衛大学校同窓会会長  
小西岑生

新年おめでとう御座います。平成12年の正月を、国内、国外の各地で任務を遂行しつつ迎えられた方も大勢居られたでしようが、今年も又平和の内に越年出来たことを皆さんと共に慶びたいと思います。昨年春に第43期生が加わって、防大同窓会の会員は1万9千名を超みました。本部の運営は、9期生までのボランティア活動によって順調に推進されており、今年度も幾つかの新しい取り組みが行われました。現役を退いたクラスを対象とする親睦交流の事業も、5月のテニス大会、10月のゴルフ大会、11月の囲碁大会と一応当初構想した事業が出そろって、来年度以降の更なる充実発展が期待されます。また、4月には防大の短艇競技に同窓会チームが参加、学生との親睦を深めました。

支部については、6月に海外で始めてのシンガポール支部が発足し、11月には関西支部の設立を見る等少しづつ組織の充実が図られております。

同窓会の事業が、今のところ本部を中心に行われているために、地方の同窓生に恩恵がないとのご不満を耳にしており、本部としても今後支部の充実発展にいかなる支援が必要かつ可能かを長期的な展望の下に検討することが急務と考えております。

母校との交流については、本年からホームカミングデー

ーを防大の卒業式に合わせて行うことで計画を進めつつあります。現在最も若い同窓生のホームカミングデーが巡ってくるのは、43年後と気の遠くなるほど先の話になりますが、丁度クラスの全員が65才となる年となりますので、一つの節目に当たるかと考えております。

母校も、創立50周年に向って施設の更新が精力的に進められており、本館も取り壊されて風景が一変しました。2002年までは大方の建設工事も終わって新しい偉容を目にすることになります。同窓会もこれを目標に何らかの貢献をなすべく、ご案内のとおり委員会を中心に募金活動を行つて参りましたが、今年で終了することとしておりますので未済の方のご協力を重ねてお願いします。

さて、平成8年以来、志方副会長に支えられて同窓会の運営に微力を尽くして参りましたが、この度代議員会において副会長共々交代を承認して頂きました。この間、各理事を始め本部事務局員等大勢の方に献身的なご支援を賜りましたことに心から感謝申し上げます。

西暦2000年は、20世紀を締めくくる年であると同時に21世紀に向つての助走の年でもあります。同窓生の皆さんにとって意義のある幸多き年となりますよう祈念申しあげます。

## 目次

### 会長挨拶

平成10年度防大同窓会講演会における

### 学校長講演

1

### 防大の現状と将来

5

### 国際防衛学セミナーの現状

6

### 防衛大学校の改編

5

### 学生隊がめざすもの

7

### 平成11年度校友会活動状況

7

### 防大50周年同窓会記念事業

8

### 同窓会行事

10

### 第1回期別対抗ゴルフ大会

10

### 第2回期別対抗テニス大会

10

### 防大同窓会中期事業計画の現状

12

### 防大カツターレ競技会

11

### 同窓生アラカルト

13

### 絵画のすゝめ

13

### バリ島の過し方

13

### 抵抗(50歳を迎えて)

14

### 期生会だより

15

### 支部だより

19

### 平成12年度防衛大学同窓会予算

21

### 平成10年度防衛大学同窓会決算報告

21

### 事務局からのお知らせ

22

22

# 平成10年度 防大同窓会講演会における学校長講演

平成11年3月10日(水)グランドヒル市ヶ谷において同窓生約200名を集め、平成10年度防大同窓会総会を実施しましたが、その際、第1回目の講演会を開催し、講師として松本防衛大学校長に講演をお願い致しました。本稿は、その際の講演内容を基に学校長自から手を入れて頂いたものです。

ただ今ご紹介いただきました、6代目防衛大学校長の松本です。今日は大変光栄なことに同窓会の第1回目の講演会の講師をさせていただきます。どれだけのことが話せるか、準備不足が多くございますけれども、最近の防衛大学校の現状、そして将来について少し御報告させていただきたいと思っております。

防大校長に着任して以来、先程御紹介ございましたけれども、6年目に入っています。この間多くの同窓の皆様方と全国でお会いす

る機会に恵まれましたし、いろんな面でお世話になつて参りました。この席をお借りして心から感謝申し上げたいと思います。

今日は3月10日でございます。かつては陸軍記念日と言われた日でござります。私は事でござりますけれども、ちょうど今から54年前の昭和20年の3月10日に、私は中学1年生の終わりでしたが、すぐ上の兄が学徒動員で入隊していた千葉の四街道に面会に行こうとしていた3月10日未明、東京は大空襲にありました。B29が300機以上襲来、文京区の本郷にあつた私の家も丸焼けになり、とうとう兄のところに行けなか



つた思い出があります。その後大変苦労して東京駅の八重洲口に24時間以上並んで1枚の切符を手にしまして、郷里の愛媛の宇和島へ帰つたという苦い思いがこの3月10日にはあります。非常に遠い思い出の日ですけれども、この日に講演をさせていただくということになりました。非常に遠い思い出の日ですけれども、この日に講演をさせていただくことになりました。私はとても記憶を思い起こす日になりました。

また今日は小西会長にも小原台に来ていただきまして、午前中46期の期生会の発会式を行いました。防大同窓会予備軍が1学年の終わり、2学年にに入る直前に結成されるのです。その結成式が今日行われました。

今日は最初に学校長として気にかけている、あるいは力を入れなくてはいけないなと思つておられる方を始め、2学年にいる方を始めで、その結成式が今日行われました。

今日は最初に学校長として気にかけている、あるいは力を入れなくてはいけないなと思つておられる方を始めで、その結成式が今日行われました。

まず一つは、防大に入つてくる学生諸君が「國」というものについて余り考えたことがないということです。自分の國というのはどんな國なのかという、いわば國の思想と言いましょうか、それに非常に乏しいということです。君が代の問題や、日の丸の問題であれだけすぐ騒ぎが起るということにも象徴されていますけれども、そういう國に対する意識が日本人全体に非常に欠如している。その状態がやはり防大に入つてくる学生にも反映されています。自分の國の思想をしっかりと把握しないと自分の将来的の使命感も確固たるものにならない。自衛隊員として立派な人物がなかなか育たないという恐れもある。その意味でこのことを教育の中でしっかりとやらなくてはいけないなと思つております。

そういうことの背景には、私が以前慶應大学に長くいたものですから、創立者である福沢諭吉の本をよく読みましたが、福沢諭吉は明治11年に「通俗民権論」を、翌明治12年に「通俗国権論」を書いています。非常にわかりやすく書いているのですが、その一節を読ませていただきますが、福沢諭吉は張しようとしても、貿易、商売で諸外国と競争しようとしても、必ず第1に必要なことは

全國民の脳裏に國の思想を抱かしめることである。ところが我が日本は不思議な因縁で数百年来外國と交通を断ち、自國と他國と比較する方法を知らないために、國民の中に國の思想が乏しい」ということを指摘しまして、更に論を進めて、國權、國の権利といふものはどういうものなのか、たとえば諸國でいえばどういうふうに理解されているのか、それから國際社會の當時の現実というものを分析して、更に國力とは何か、あるいは國の覺悟、國民の覺悟、というような順番で論を展開しているのです。この福沢諭吉の書いた時代は鎖国から出たばかりの日本での國の思想が非常に薄かつた時代で、それと現代とはかなり違うのですが、しかし、第2次大戦で日本は敗戦し、從來の天皇制が崩れ去った時に、日本のナショナリズムもまたその揺り所を失つてしまふ。そして明治の脱亞入歐とはその動機と主体性において全く異なりますけれども、米軍を中心とした連合軍の占領下にアジアと離別して、今度は脱亞入米という形で國家の生存を図ることを余儀なくされたわけですね。この時以来また日本は自分で國といふことを真剣に考えることをしなくなつてしまつた。國の思想を失つてしまつたと言えると思います。

日本は昭和20年の敗戦以来今日まで50余り経ちますけれども、最初のうちはエコノミックアニマルというような言い方でも呼ばれましたけれども、ただひたすらに經濟の復興、そして發展に全努力をかけ、驚異的と賞賛されれる發展を遂げて今や世界の最先端、トップランナーにいるわけです。しかし一方では過去の戦争への反省からくる贖罪意識や過度の軍事アレルギー、あるいは全く未成熟な国連による平和に夢を託したユートピアニズムに傾斜しすぎ、國家目的とか使命感といったような國のありようについて、日本人は真剣に議論するのを避けてきたと言えると思います。國の思想が弱い故に、他國の主張に反駁するの勇気なく、また右往左往するが故に、えつて侮られ嘲笑されるということも多い。國際社會に普遍的に理解され通用する國の思想についてもつと國民がしつかり議論し、国について共通のコンセンサスを確立して、

世紀の国際社会に船出しなければ、いつまでたっても今のような優柔不断な事になつていいのではないかと非常に心配されます。それ離脱するにはどうすればよいか、非常に難しいのですが、私はやはりもう一度歴史をみんなが読み直してみる必要がある。歴史教育の議論も色々行われていますが、それと別に意味で予断や偏見に偏ることなく、日本はもとより古今東西の世界の歴史、国家興亡の歴史をもう少し教育の中に取り込んで、人類の歩んできた歴史というものをしっかりと勉強してみる。その中から、守るべき国への誇りとか自覚とか使命感といったようなことが生まれてくるのではないかと思います。そのところをないがしろにしているために、日本全体としてそういうものが非常に曖昧になります。そこで、守るべき国への誇り欠けている状態が続いているように思ひます。そういう意味で防大の学生教育において、この部分を重視していかなくてはならないと思つております。

第2に、考えなくてはならない問題は、一言でいうと、「防大は士官学校か大学か」という問い合わせにどう答えるかです。学生の中からよく出る質問です。この場合の士官学校といふ意味は厳しい訓練、規律ということが前提にあっての意味で、学生の中には防大生らしからぬ規律の緩みというものが目につくことがあります。それが行過ぎますと、それは大学教育と無くすためにはもつと厳しく、士官学校らしくを強調したいという意味での質問になるわけです。それも確かに一理ある、そしてそのことは考慮しなくてはならないのですが、一方それが行き過ぎますと、それは大学教育といいましょうか、レベルの高い教育からのお避につながりかねない。防大は決して下級の自衛隊幹部を作る養成学校ではない。防大の目指すべきは高級幹部の養成学校である。そのためにはやはりレベルの高い知識とか知恵とかあるいは教養というものを身につけてこそ、より大きな高いところから物事を判断できるようになることも忘れてはならない。その意味でも大学教育的な部分も重視しなくてはならない。模範解答ではないのですが、だいぶ防大内で議論しまして、私はこんなふうに答えておきたいと思います。「防大は士官学

校か大学かという単純な二者択一の上に成り立つのではない。将来幹部自衛官となるもの育成するという設立目的から、防大はいわゆる士官学校としての性格特色を有し、規律正しい学生生活、全員参加の校友会活動、初步的な訓練、基礎的防衛学教育などを通じ、優れた幹部自衛官としての素養を与えることを重視している。しかしこれと同時に、広い視野を開き、科学的な思考力を養い、豊かな人間性を培うことを目的に防大は他の一般一流大学とか、他国の士官学校に負けぬ高度の大学教育を与えることを、今一つの柱として等しく重視している。防大は昭和28年の建学以来、常にこの二重の重要な性格を学生各人が一身の上に一体化して人格化することを目指してきた。それこそが「眞の紳士・淑女にして眞の武人」の育成という言葉の目指すものであり、学生諸君には不斷の努力を期待している。「100年兵」を養うはただ一日のため」という言葉もございます。またダートマスにある英國の海軍士官学校には「心に選擇をとつていなか、腕に力は抜けていないか」の有名な碑文もございます。またサンシールのフランスの士官学校へ行くと、そこでドゴール大統領の卒業式に述べた有名な言葉、要約しますと「士官たるべきものは長い戦争に耐える勇気と共に長い平和に耐える勇気が必要である」という言葉も残っています。我々防大には吉田総理の「治にいて乱を忘れず」という石碑も残っております。いつ起こればいつ役に立つか判らない危機に備えて、常に心を緩めず兵を養い、力を蓄えておくことは必要である」という言葉も残っています。これが我々に課されている、君たちに課されている課題なのです。それも確かに一理ある、そしてそのことは考慮しなくてはならないのですが、一方それが行き過ぎますと、それは大学教育といいましょうか、レベルの高い教育からのお避につながりかねない。防大は決して下級の自衛隊幹部を作る養成学校ではない。防大の目指すべきは高級幹部の養成学校である。そのためにはやはりレベルの高い知識とか知恵とかあるいは教養というものを身につけてこそ、より大きな高いところから物事を判断できるようになることも忘れてはならない。その意味でも大学教育的な部分も重視しなくてはならない。模範解答ではないのですが、だいぶ防大内で議論しまして、私はこんなふうに答えておきたいと思います。「防大は士官学

会の指導者の育成にあたる。そのため大学では広い知識と深い専門をつけ、知的、道徳的、応用的能力の修得が要求されるわけです。知識を得ると共にそれを応用して問題を発見し、解決する知恵を体得することが大学教育の重要な目的に成っているのです。こうした知識と知恵のある人を教養の高い人と我々は呼ぶわけですが、その教養の高い人は、正しいことと間違つてのこと、正邪の区別を高いレベルで判断できる人です。それはまた幹部自衛官にとっての必須の条件になると想います。幹部自衛官に必要な条件というのは、こういう意味での高い教養である。そしてそういう基盤を養うということから、防衛大学校は外国のどの士官学校にも負けない高いレベルの大学教育を行つてあるといえます。これが私の考える防大における教育の理念であり、西洋流に言えば「文智のアテネ精神」そして「勇武のスバルタ精神」の統合を図る全人教育でなくてはならない。勇武に偏りすぎてもいけないし、文智に偏りすぎても問題である。やはりバランスのとれたレベルの高い文武両道の人間を作る。それが我々に課されたものであるというふうに思います。このことを学生にも強調しています。どちらかに逃げるなど、苦しいけれど、この二つの文武両道を身につけることに意味があるのだと言ふことを強調することに努力している状況でございます。

少し別の視点から言いますと、「知育・德育・体育」という明治以来の日本の三育のもの見方、これは「知・徳・体」のバランスのとれた人間を作ることが目的なのですが、防大の学生に対して私は「徳・知・体」、「德育・知育・体育」と順番を替えて強調しております。德育をまず確立しようと。そこが基本になつての「知育・体育」なのだと。特に德育面が、防大に入つてくる以前の段階で、非常に欠けている状況なのです。非常に豊かな時代の学生になつてはいる。富の意味で非常に豊かになつてはいる時代に育つた子供たちが18歳になつてきているわけで、学生たちは素質的には極めて高いものを本來持つて入つて来ている。競争も非常に激しいですし、いい成績の学生がやつて来る。しかも入つてからみんな一生懸命やつてゐると言えますけれども、入つてくる段階での德育面の欠如が顕著です。德育をやつてあるわけですが、教育というのは家庭教育あり、学校教育あり、そして社会、あるいはマスコミ教育というものがある。福沢諭吉は家庭教育こそ一番重要なものでありますと「人間社会は家庭の集まりたるものなり。社会において悪事を働くものは、この家庭という学校の卒業生なり。社会の有様を改革せんと欲せば、先ずその学校を改革すべきなり」というのがあります。やはり家庭教育に先ず始まる。家庭に将来悪に育つ芽があると言うことを彼は強調している。その通りだと思います。また学校教育も今非常に問題です。第2次世界大戦後の学校教育には大きな欠陥があつたと言わざるを得ない。自由平等という非常に崇高な価値、人類にとって価値あるものが正確に把握されないままに日本に導入されてきた。自由にしても、福沢諭吉に「自由は不自由な中にあり」という有名な一文がありますけれども、人間が社会の中には住んでいると、その社会のいろんな規則に従わなければならぬ。その縛られた中で精神一杯自由に生きる、その不自由の中の自由が人間の持つ自由の意味だということを説いておりますが、今の日本では他に対する意識を非常に欠いた自由、自分勝手な自由というのがかなり一般的になつてきています。平等についても平等は出発点においての平等、しかし努力せざる者は差をつけられていくのはやむを得ない。これが世界共通する平等についての理解ですが、結果においても平等にしようという発想がかなり日本にはあるのです。そういう意味での自由平等のはき達えというものが、学校教育の考え方の中についたために、非常に混乱した状態になつてはいると言わなければならぬと思います。ましてや社会、マスコミの教育という部分については、マス

コミの影響力が極めて大きくなっている今の状況下で、青少年の教育にとって非常に悪い影響を与える場面も多くなっています。とにかく国を挙げて教育について考え方を変えていくことが要求されていると思います。防大に入つてくる学生もそういう状況の中でも人つてくるわけですから、これをどう鍛え直していくのかというのが学校に課せられた課題です。今打ち出しているスローガンは、1学年の「模倣実践」、2学年の「切磋琢磨」、3学年の「自主自律」、4学年の「率先垂範」を各学年の基調となる目標に掲げています。1学年が入ってくるときは、一般の大学に行く学生とそう多して変わらない学生が入つてくるわけですから、4人部屋になるともうそれで文句を言う学生も出てきますし、朝早く起きる、一緒の風呂に入る、それもなかなか出来ない学生が入つてくるわけです。先輩たちに何か言われるとすぐそんなのおかしいよというふうに感じる。生活環境がそれまでと180度変わっているわけですから、当然起る訳なのですが、文句を言わずに精一杯やつてみてごらんと言うのが模倣実践、2学年は、今度は切磋琢磨です。ともかく仲間に負けるなをモットーに一生懸命やつてみるという考え方がある。そこでは自分で物事のいいか悪いか考え方判断する、自ら正しいと判断したことを実行してみる。やつたことについては自分で責任をとる。これが自主自律の基本になつている考え方ですが、これを3学年で身につけてもらいたい。そして4学年は今までやつてきたことの総決算だから先輩としてこれまで身につけてきたことを後輩にやつてみせる。口で言うのではなくて態度で先ずやつてみせる。一番の基本は、やはりこの模倣実践から率先垂範に至るまでのこの流れを修得することにある。それぞれ幹候校に行き、また各自衛隊に進めば、模倣実践から率先垂範への課程はくり返しあると思いますが、その基本を防大時代に身につけなくてはならない、というふうに言つてゐるわけです。

それから、4人部屋にしました。2人部屋

を10年ほどやりましたが、私が見ていて一番心配したのは、小隊指導教官になって来る若い指導教官、2尉クラスが多いのでしょうか。この「一人部屋で育つた人たちにどうも自信がない」学生を指導するのにいろいろとためらいがある人がいる。それがやはり学生たちに影響を与えるということがしばしば見られるようになりますし、4人部屋を決断しました。やはり同じ部屋に4学年、3学年、2学年、1学年がいると、1学年は2学年、あるいは3学年、4学年の様子を見ながらそれぞれ上の人たちの様子を見ながら、そこで模倣実践をしながら学んでいく。4学年は特に後輩に見られているわけですから、しっかりとしなくてはいかんという意識が自ら育ちます。1学年は1学年、2学年は2学年、3学年は3学年、4学年は4学年の2人部屋の時代は同期ということはどうしても気がゆるんで、人間形成の上で危ない状況があるのです。ゆとりという意味では確かにゆとりでなければ、学生舎生活というのは防大にとっては普通の教育、あるいは訓練でやれないいろいろなものとりわけ人間関係をそこで学ぶ一番大切なところですから、少しきつくなるけれども、学生舎生活といつては防大にとっては普通の教育、あるいは訓練でやれないいろいろものとりわけ人間関係をそこで学ぶ一番大切なところです。将来自分は必ずプラスになるだろうといふふうに思つております。

女子学生が入つてきて、もう8年くらいになります。7パーセントから8パーセント位の比率で入学しておりますし、学生舎では4階に入れてやつております。女子学生、男子学生と一緒になるのでしょうか。よく頑張つてやつております。7パーセントから8パーセント位の比率で入学しておりますし、学生舎では4階に入れてやつております。女子学生、男子学生が一緒になるということで、当初から考えられていましたように、男女関係の心配は常につきまとつてゐるのですが、試行錯誤しながらもう10年近くなりますので、だんだん安定してきつつあると思います。

留学生については今日はちょっと時間がなくなりましたので、省略させていただきます。昔も同じでしようけれども、時々不届き者が出て処分もされておりますが、学生たちは今の同世代の他の大学の若者たちと比べると、はるかに真剣に生きているということは間違ひありません。そのことは自信を持つと言えると思います。その意味では、先輩諸氏にも安心いただいていいかと思います。また私自身そういう学生を教える立場にあると、非常に誇りに思つていろいろなところで行くと自慢します。

最後に15分ほど時間がありますので、ここで少し50周年についてをお話したいのです。が、2002年の秋頃を50周年記念式典の時期として考えておりますが、それを前にして今幾つかの改革を行つております。まず一つはソフト面で、今ある学校のいろいろな教育組織がや時代遅れになつてゐる。私は学校作りというものを長く文部省関連で携わつてきましたのですから、今から目指すべき方向はどこかということについてわりと議論してきました。経験があります。防大にまいりまして、私のやれる仕事として、新しい21世紀に向けて防大の教育改革をやつておきたいと思い、副校長、幹事始め皆さん方の協力を得ながらやつたと、将来自分は必ずプラスになるだろうといふふうに思つております。

女子学生が入つてきて、もう8年くらいになります。7パーセントから8パーセント位の比率で入学しておりますし、学生舎では4階に入れてやつております。女子学生、男子学生と一緒になるということで、当初から考えられていましたように、男女関係の心配は常につきまとつてゐるのですが、試行錯誤しながらもう10年近くなりますので、だんだん安定してきつつあると思います。

その一つは社会科学系の学科で、今国際関係学科と管理学科がござりますけれども、このうちの管理学科の改革です。これは管理学科が当初20数年前にできたときには、同じ管理でもビジネス関係の研究者は日本でも育つていていますが、ノンプロフィット、すなわち公共の分野の管理についての材は日本には余りませんでした。そこでこの部分を変えて、公共政策学科として組み直した。そこで公共の機関として自衛隊、防衛庁に焦点を当てつつ、また、そこにおける政策をどう立案し、運営し、管理していくのかという面に焦点を当てた学科に切り替えていくつもりでいます。

2つ目は、人間文化学科という新しい人文系の学科を少人数で少しだけ設置したい。自衛隊の任務は多様化している。もちろん中核は国家の防衛ですけれども、その外にいろんな仕事を増えつづります。国際的な協力業務もこれからますます増えていく可能性が出てきております。日本の防衛についての考え方、実践していることを正しく外国に発信する必要性も大きくなっています。そういう中で現在の防大の教育体制でいいのかと言いますと、ちょっと問題があるよう思います。新しく人間文化学科を作ることによつて、從来防大に欠けていた一分野を補いたい。世界の国々には先進国もありますし、途上国もありますけれども、そこに住んでいる人たちの歴史とか文化とか宗教とかあるいは民族とかそういう視点から地域研究を行う分野というのが従来防大にはなかつたのです。そういうアプローチのできる学科、同時に国際的に活躍できる語学力の能力の極めて高い学生を育てる学科、人間文化学科の設立について今検討をお願いしているところです。ここではたとえばTOEICの防大学生の平均点は英語の先生に頑張つてもらつてここ4年くらいで、ようやく50点ほど上がりました。相手が16名いました。やはりそれなりに成果は上がっているのです。これではとても国際的には通用しません。もちろんそういう中には700点以上の学生も混じつてます。1月、2月でやつた試験で日本の学生で700点以上が16名いました。やはりそれなりに成果は上がっているのです。この人間文化学科では全員当然700点以上の能力に高めて、第2語

3番目は理工学の研究科後期課程の設立をお願いしております。防衛大学校は今、理工学は修士課程まであり、今日の会議で65名の修士課程の学生が卒業することが決まりました。防大にはドクターコースが必要なのかどうかの議論を随分しました。しかし考えてみると、自衛隊にとって必要な理工学系の研究で、日本の他の大学でできない分野というものができます。一般大学ではやらない、防大でなければやれないもの、しかも自衛隊にとっては必要である。そういう分野を中心のごく少数ですけれども、ドクターコースを作つてこの分野の研究を中心にやりたいということでお請をしております。ドクターコースを作ることは先生たちにとっても大変な誇りになりますし、学生たちにとってもいい影響を与えると考えております。

もう一つ理工学研究科の本科の改変も今お願いしております。これは今14専攻ございましょう。学生数に比べまして細分化され、専門化され過ぎているというところがある。防衛大学校における理工学の意味は、もう少し基礎的な部分に力点をおいた構成が望ましいのではないか。そういう意味で、余り蛸壺化しないで専攻をまとめていこうではないか。そして自衛隊にとって必要なもの、例えば海洋関係の工学系の科目の分野が防大には非常に少ない。四回を海にとり開まれており、また海上自衛隊があるにもかかわらず、その研究の分野が非常に少ないというのは問題です。さらに宇宙、あるいは衛星関係という非常に新しい、しかも必要な分野で存在しないものをこれから補つていくのか、勇気を持つてスクランブルアンドビルトをやらないといけない。副校长、教務部長にも大変努力をしてもらつて今やっているところです。防衛学もここ3、4年来随分検討していただきたいと思います。

時間が非常に少なくなりましたが、記念事業のハード面での計画が進んでおります。小原台の中心部分約3千坪で、本館から人文科学

館にいたる部分についての改革、これは防衛庁において承認され工事が始まっています。全体で数年かかりますが、大変厳しい財政事情の中で140億ほどの予算をいただくことになりました。50メートルほどの高さの給水塔を「ごらんになつた方、お登りになつた方もおられるか」と思いますが、それに始まりますと、自衛隊にとって必要な理工学系の研究で、日本の他の大学でできない分野というものができます。一般大学ではやらない、防大でなければやれないもの、しかも自衛隊にとっては必要である。そういう分野を中心のごく少数ですけれども、ドクターコースを作つてこの分野の研究を中心に行なうといふことで申請をしております。ドクターコースを作ることは先生たちにとっても大変な誇りになりますし、学生たちにとってもいい影響を与えると考えております。

もう一つ理工学研究科の本科の改変も今お願いしております。これは今14専攻ございましょう。学生数に比べまして細分化され、専門化され過ぎているというところがある。防衛大学校における理工学の意味は、もう少し基礎的な部分に力点をおいた構成が望ましいのではないか。そういう意味で、余り蛸壺化しないで専攻をまとめていこうではないか。そして自衛隊にとって必要なもの、例えば海洋関係の工学系の科目の分野が防大には非常に少ない。四回を海にとり開まれており、また海上自衛隊があるにもかかわらず、その研究の分野が非常に少ないというのは問題です。さらに宇宙、あるいは衛星関係という非常に新しい、しかも必要な分野で存在しないものをこれから補つていくのか、勇気を持つてスクランブルアンドビルトをやらないといけない。副校长、教務部長にも大変努力をしてもらつて今やっているところです。防衛学もここ3、4年来随分検討していただきたいと思います。

最後に同窓会について少し考えどころを申し上げますと、私は先程紹介いたしましたように慶應におりましたが、その時に非常にいい制度だなと思いましたのは、昭和30頃に、卒業式に卒業25年のOBと卒業50年のOBを招く制度を作った。それ以来ずっと25年卒と50年卒が卒業式に招かれてくる。その年の卒業生の背後で大先輩たちが見守ってくれている。伝統的絆がしっかりと受け継がれています。非常に暖かい雰囲気がそこには生まれます。今防大の卒業式には家族が来ており

ますし、大変数が多いのですが、しかしちよつと寂しいのは、OBをお呼びする制度がないということを感じております。私は是非2002年の新ホールが完成したときには、卒業生の背後に何年度OBになるかはわかりませんけれども、まずは1期生の方々くらいから最初はお呼びして、背後で見守つていただく、そういう制度を作りたいというふうに感じております。これから少し議論していくたまに建設され、2002年の式典までに完成されると思います。そこには皆様方の御協力により、平山郁夫画伯のステンドグラスも入ると伺っております。そのあと新図書館、音楽会、国際会議等ができる多目的ホールが完成します。そして現在多目的ホールと呼んでおりますが、卒業式、入校式、大講演会、音楽会、国際会議等ができる多目的ホールが完成します。そして現在多目的ホールと呼んでおりますが、卒業式、入校式、大講演会、音楽会、国際会議等ができる多目的ホールが完成されます。そこで今はまだO.B.の方々を招待して来ていただき、後輩たちを見守つていただく。そういう制度を会長を始め皆様方と相談して実現したいと思っております。そういうことを考へていることを申し上げて、終わりにしてから感謝を申し上げて私のお話を終えたいと思います。

御静聴ありがとうございました。



# 人は空に夢を見る。

# 三菱重工業株式会社

航空機・特車事業本部

東京都千代田区丸の内2-5-1 ☎ 100-8315 ☎ 東京 (03) 3212-3111

# 防大の現状と将来

卒業生は今年3月に卒業した本科  
43期生を含めて18、912名（うち  
外国人留学生119名）、理工学  
研究科は36期生を含めて2、113  
名（うち外国人留学生12名）であり、  
総合安全保障研究科の第1期生21名  
(うち民間人2名)がはじめて卒業  
しました。すでに御存知のように、  
1992年から本科および理工学研  
究科卒業生にはそれぞれ学士、修士  
の学位が文部省（学位授与機関）か  
ら授与されるようになり、一般大学  
にくらべて遜色のない環境づくりが  
着実に進んでおります。とくにお知  
らせしたいことは、政令を改正して  
民間に門戸を開放したことであり、  
現在は理工学研究科3名、安全保障  
研究科2名（すでに2名卒業）が正

本校は今年で創立以来47年目となり、2002年（ワールドサッカーの年）には創立50周年を迎え、そのための記念事業が学校、同窓会ともに具体的に進んでいます。旧い給水塔に代わって50mのシンボルタワーがすでに完成してキャンパスのシンボルの1つになりました。新しい人文科学館は12月に完成しました。本館と旧図書館はすでに撤去され、数年後には様相を新たにした小原台に変身することでしょう。

## 防衛大学校本科の改編 および 理工学研究科後期課程 の設置

防衛大学校教務部長 金井 喜美雄

## 防衛大学校本科の改編 および 理工学研究科後期課程 の設置

規の学生として入校しています。このような受託教育は本校の歴史にとって画期的なことでして世間一般から防大が客観的に評価される絶好の場を提供したことになり、我々の真価が問われることになります。

本科教育課程は1989年にそれまでの理工学専攻の6専門区分を14学科に改編し、同時に人文・社会科専攻2専門区分を2学科とし、合わせて16学科となつて現在にいたり、約10年が経過しました。その間大学進学率が上昇するとともに高等学校教育の内容も多様化し大学新入生の基礎学力の格差が拡大する傾向にあり、基礎教育の充実が一般大学では大きな課題になつています。一般大学では学部では基礎および教養教育を重視し、専門教育は主として大学院で実行し、基礎的内容の教育をより重視する傾向になっています。本校においても10年前の理工学専攻の改編は専門教育の内容がやや専門化・細分化される面があり、専門教育の基礎的内容を重視する最近の大学教育の在り方に必ずしも適応なくなっているという反省に立つて改編を検討して参りました。

自衛隊の任務の多様化、学問の国際化・総合化などを考慮して理工学専攻14学科を新たに11学科に改編し、人文・社会科専攻については人間文化学科を新設して3学科に改編し、全体で14学科体制とする計画です。体育、外国語などを含めた現在の16教室を廃止し、教育目的や学問的共通性に基づいて区分し、各学群に学群長を置いて群内（3～4学科で構成）における調整権限・管理監督権をもつ管理職として遇することを計画しています。これによって基礎教育に責任をもつて担当できる体制を整備し、学科・科目間の協力体制を確立し、学校運営の円滑化を意図しています。なお、基礎教育を責任もつて担当する総合教育学

群、防衛学の教育は防衛学教育学群、専門教育はそれぞれの専門に応じた4学群が担当するように組織化されています。（表1）。

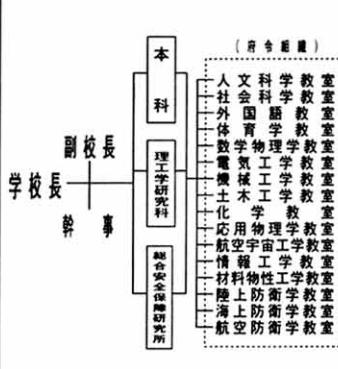
一方、後期課程（ドクターコース）の設置については、益々高度化、ハイテク化する防衛装備、技術に対応し、これら分野における自立した研究開発能力を有する人材を育成するため、専門的かつ高度な研究能力およびその基礎となる幅広い学識を習得させることを目標に表2のような専攻および研究分野を展開する計画です。火薬、暗号あるいはミサイル、海洋音響など国内大学院においてあまり取り上げられない研究分野を中心とし、防衛庁のニーズにあつた高度な教育を目指しています。

以上、改編および新設について概略を紹介しましたが、これらの事項は予算要求の段階でして、本科改編は平成12年4月、後期課程は平成13年4月のスタートを目指して大学が一丸となつて努力しておりますので諸先輩方の御支援のほどよろしくお願いいたします。

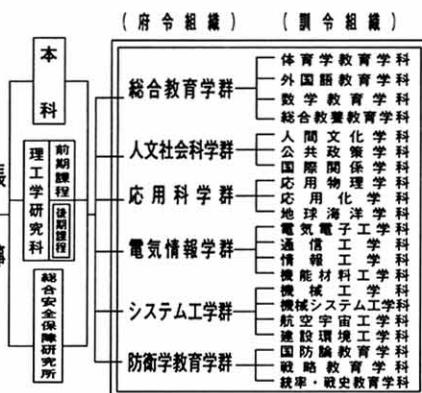


## 防衛大学校教育研究組織

(現 行)



(改 正) (学群及び学科の名称は仮称)



## 後期課程

専 攻	研 究 分 野
電子情報工学系専攻	エレクトロニクス工学 情報通信工学 情報知能メディア工学 海洋音響環境工学
装備・基盤工学系専攻	装備システム工学 航空飛翔システム 防災工学
物質・基礎科学系専攻	高エネルギー・物質工学 先端機能材料工学 基礎物理学 地球宇宙科学

表 2

表 1

國際防衛學

## セミナーの現状

航空防衛学教室 小川修 15期(空)

# 1. 国際防衛学セミナー (I.S.M.S)

である防衛学に関するセミナー（国際防衛学セミナー・International

Seminar for Military Science)を平成7年度から毎年本校において開催しております。本セミナーは、防衛大学

校と同様に士官候補生の教育を実施している諸外国の軍学校、防衛学の研究

を行つてゐる諸外国の軍学校ならびに  
わが国的一般大学等から、教官・研究  
員の参加を得て開催しております。

このセミナーの主な目的は、防衛大  
学校における防衛学の教育・研究の質

的レベルア・ブを図るとともに、参加各国における防衛学の教育・研究の充実発展に寄与することや、アジア・太平洋

洋地域における相互信頼の醸成に寄与すること、さらに参加国の我が国に対し理解を深めることである。

する理解を深めることができます。このセミナーにはオーストラリア、カナダ、中国、インド、インドネシア、韓

マレーシア、モンゴル、フィリピン  
シリア、シンガポール、タイ、米国

国へトナムの14ヵ国の軍学校等から大佐または中佐クラスの教官・研究員を招聘し、国内の一般大学からも関連

講座の先生を3～4名招聘しております。本校からは陸・海・空の防衛学教

室を中心として社会科学教室、理工学教室等からの教官が参加しております。参加国との調整は半年前から開始す。

しますが、各国のお国柄が如実に出来ます。オーストラリア、カナダ、アメリカ等の国々は早々と参加者が決定し、調整もEメールを使いスムーズに実

セミナーは、研究会と研修を実施しております。研究会は各国参加者及び防大参加者による発表・討議・聴講者との質疑応答等を英語により実施します。今までの研究会のテーマとして、第1回は、「士官学校教育」について、第2回は、「統率教育」について、第3回は、「自然科学、工学及び軍事技術

3. 研究会  
回海防主任、第5回空防主任)事務局長を除き、ほぼ同一のメンバーで同時並行的に準備、運営を実施しました。

り組む雰囲気にありませんでした。このため、第5回は7月の夏季定期訓練期間中に開催時期を変更し、行事の分散を図りました。しかしながら本年(平成11年)は3月に第4回セミナーを、7月に第5回セミナーを開催することとなり、その間の準備期間は実質3ヶ月余りとなつたため、第4回と第5回の準備実行は、実行部会長(第4

このセミナーの準備・運営には防衛学教室教官が中心になつて組織した実行委員会があたつております。

第1回から第4回までのセミナーは3月に実施しておりました。この3月から4月にかけての1ヶ月間には、防衛学セミナー、士官候補生会議、卒業式、入学式等の学校行事が目白押しに続いており、じつくりとセミナーに取

施でできますが、開催直前までなかなか参加者が決まらない国もあり、運営を担当する者にとつては頭の痛い状況であります。今回（第5回）の参加は、モンゴルが初参加のほか、中国が第1回の参加以来4年ぶりの参加となりました。今回は直前になつて中国が参加を決め、また、インドが印パ紛争により不参加となるなど国際情勢の影響をもろに受けるかたちとなりました。このような状況の中、オーストラリア統合士官学校副校長、シンガポール国軍士官学校長の外、各軍学校の学部長・部長クラスの教官・研究員の参加を得ることができました。

5. 戰略教育の現状と将来  
第5回セミナーは、「21世紀に求められる士官像V・戦略教育の現状と将来」をテーマに発表・討議を行いました。討議においては、「今後の戦略教育においては、知識と情報、グローバル化、科学技術の発展、複雑化によつて社会が変化し、それに応じて戦略教育も、自國の国益ばかりでなく平和維持活動、民族や宗教紛争の抑止、麻薬や不法移民の防止といった観点からの戦略も必要であり、軍の役割も多様化

外國からの参加者は、韓国候補生学校と史跡等を研修します。我が国の士官候補生教育は、防衛大学校と各自衛隊の幹部候補生学校において行われていることを研修することによって、日本における士官候補生教育の流れを理解できるようにしております。今回は、江田島の海上自衛隊幹部候補生学校や教育参考館を研修しました。あわせて、史跡研修として広島において原爆記念資料館を研修しました。その他、伝統文化の研修として鎌倉における神社・仏閣の研修、現代日本社会の研修として、横須賀市民ボランティア家庭へのホームステイ・ビギット、ならびに東京都内の研修等を実施し、日本文化の理解を深めるようになりました。横須賀市は外国人との交流を活発に行つており、本セミナー参加者のホームステイ・ビギット、鎌倉研修のガイド、同伴婦人への茶道、着物の着付け等の日本文化紹介には多くの市民ボランティアの協力を得ております。

意見が出されました。また、各国から大学などの上級将校の教育機関からの参加もあり、戦略教育の体系と戦略教育を段階的に捉えることの重要性が認識される等戦略教育の理念及び戦略教育の方法論について活発な討議が実施されました。

また、各國の参加者からも、討議の内容が有意義であり、自國の士官学校教育に反映したいとの意見もありました。さらに、女性の軍人が30%に達する国からは、今後のセミナーで女性に関しても意見交換をしたいなど、各士官学校等における現状が率直に語られるとともに活発に討議がなされ、各國もそれぞれの国情と教育環境の中で21世紀における士官像や士官候補生教育をいかにすべきか模索中であることを感じ取ることができました。

## 学生隊がめざすもの

防衛大学校本科第44期

学生隊学生長 阿部 直樹

建校以来、防衛大学校学生隊は自主自律のもと厳しい集団生活を運営し、学生相互の資質向上を目指してきた。これは学生隊という組織を編成するにあたっての原点であり、今も昔も変わらざるところである。

ではなぜ1、600名もの若者が、大学時代という人生の貴重な時期に、ここ小原台で厳格な集団生活を送らねばならないのか。私の解釈によれば、学生隊がめざすものとは、人間社会の基礎ともいすべき、人と人の“信頼関係”を学び、それを構築するところにある、ということである。

同じ部屋の下で寝起きし、同じ釜の飯を食い、同じ風呂に入り、文字どおり“裸のつきあい”を4年間継続していくことで、見ず知らずだった学生の間にもゆるぎない信頼関係が構築されるだろう。時に困難に直面したとしても、そんな信頼関係で結ばれた仲間の協力が、大きな力となることを知るだろう。

防大時代に培われた友情が、思わずここで実を結んだという話を、本校卒業の先輩方から伺う機会

会が多い。気心の知れた仲間達が全国各地に散らばつて、組織の中核を担っていくわけである。たとえ遠く離れた部隊であつても、こういった個人レベルの信頼関係がきっかけとなつて、部隊レベルでの連携が図られるかもしない。事務的調整が難なく進行してしまふかもしれない。

ただし我々は、信頼関係構築の重要性を知ると同時にまたその道のりの険しさをも知るべきである。学生隊生活は毎日が摩擦、軋轢の連続であり、学生の無関心は信頼醸成の大きな障害にもなつていい。ここ学生隊においては全学生が、そういう人間関係の難しさ、苦悩と絶望を、何らかのかたちで経験することになるだろう。しかしこのような経験こそ、人間組織というものを知るに不可欠であり、苦悩や絶望が大きければ大きいほど、それを乗り越えて勝ち得た信頼関係というものが、真に価値あるものとなるのである。

我々は、結束の強い組織こそが最高の仕事をしうるということを知っている。同じ志を持つ仲間との信頼関係が、将来の国家防衛に大きく寄与するであろうことを信じている。学生隊が、これからも以上の人間を志向する組織であつてほしいと願つてやまない。

平成11年度運動系校友会活動結果及び部員数状況

校友会名	成績	部員数		校友会名	成績	部員数	
		男子	女子			男子	女子
応援団リーダー部 短艇委員会	各種大会における応援 全日本カッター競技大会優勝 関東地区新人戦優勝	11 60		グライダー部 ソフトテニス ボクシング部	全日本新人競技会6位入賞 秋季関東学生リーグ戦9部5位 関東大学トーナメント戦	23 26 35	3 1
バスケットボール 柔道部	男子 秋季関東リーグ戦5部昇格 女子 神奈川リーグ戦2部8位 神奈川県学生春季大会3位 女子中量級優勝 秋山	44 30 128	11 1 41	レスリング部 ボート部 フィールドホッケー部	ライトウェルター級決勝進出 東日本学生リーグ戦2部6位 東日本大学選手権大会8位	25 20 41	1 16
ラグビー サッカー 剣道 空手道部	神奈川県リーグ戦1部6位 関東理工系選手権大会準優勝 全国公立選手権大会優勝 神奈川県選手権大会優勝	43 59	4 2	ワンダーフォーゲル部 パラシュート部 準硬式野球部	秋季関東学生リーグ戦4部2位 奥多摩、芦ノ湖、葉師寺、立山等 日本選手権大会団体7位 個人Jr.の部優勝 藤井	19 11	3
バレーボール部 卓球部 陸上競技	男子 秋季関東リーグ戦4部優勝 女子 秋季関東リーグ戦11部昇格 秋季関東学生リーグ戦5部2位 男子団体優勝 女子団体2位	24 17 54	9 2 7	合気道部 体操部 弓道部	神奈川7大学リーグ戦5位 ベストナイン：捕手 藤田、1塁手 木吉、左翼手 森竹 全日本学生演武会出場 東日本理工系大学選手権大会3位 秋季南関東リーグ戦	44 40 25	2 3 7
硬式庭球部 硬式野球部 射撃部 山岳部 水泳（競泳） 水泳（水球） ハンドボール アメリカンフットボール ヨット（小型） ヨット（クルーザー） 銃剣道	男子 関東理工科リーグ戦6部昇格 女子 関東理工科リーグ戦9部昇格 秋季神奈川リーグ戦2部3位 秋季関東学生ライフル選手権大会9位 槍ヶ岳、谷川岳、立川連峰等登山 東部国公立大会5位 関東学生リーグ戦2部3位（全国大会出場） 関東学生リーグ戦5部優勝 関東学生リーグ戦2部2位 1部昇格 関東学生選手権秋季大会 470級15位 スナイプ級7位 黒船ヨットレー15位 全国日本選手権大会 男子 銃剣道3位 短剣道優勝 女子 短剣道優勝	44 36 22 9 26 22 23 90 21 17 33	9 3 2 4 4 4 2 1 2 17 33	少林寺拳法部 フェンシング部 ウェイトリフティング部 相撲部 自動車部 バトミントン部 居合道部 吹奏楽部 儀仗隊	全国日本学生大会団体演武4位 組演武段外の部優勝 高木・高橋 関東学生リーグ エペ3部4位 全日本学生新人選手権大会 56kg級優勝 甘利 神奈川社会人選手権大会 69kg級優勝 留 東日本学生選手権大会Cリーグ準優勝 全国学生選手権大会Cクラス準優勝 関東学生对抗軽自動車6時間耐久レース8位入賞 男子 秋季関東大学リーグ戦5部昇格 女子 秋季関東大学リーグ戦5部3位 自衛隊全国大会3位 横須賀ライオンズパレード。横須賀港祭り 自衛隊音楽祭り	29 29 22 29 29 22 16 14 15 15 23 47	3 3 3 3 3 3 2 3 7 3 3 3 8 4 5 4

## 1 全般

平成11年は、現役会員を重点とした募金活動を継続するとともに、防大の施設整備状況及び募金状況を考慮しながら、既に構想の固まつたステンドグラス以外の各記念事業について具体化のための検討を行ってきました。今後とも記念事業に関する同窓生各位の積極的な提案を期待しております。

中央広場に設置を計画している彫刻像（約2千万円）は、同広場は記念行事が予期される平成14年秋に完成の予定であり、その地下部分となる図書・情報館の建設工事が平成12年度着手の計画となつたため、防大当局と調整のうえ平成12年内に彫刻像の設置場所、大きさ、モチーフ等を該定し、平成13年度に制作を依頼する予定であります。

### (2) 顕彰室 資料館等（総額2千5百万円）

## 2 記念事業の進捗状況 〈概定予算額〉

### (1) モニュメント（総額約5千万円）

記念事業の中核であるステンドグラス（約3千万円）は、平成13年末完成見込みの項目

的講堂の正面に設置予定であり、その原画作成については既に平山画伯の内諾を得ていま

すが、ステンドグラス制作工房を決定のうえ、画伯に対して正式に依頼する予定です。制作工房については、昨年は実績のある日本交通

文化協会から申し出があった旨報告しました

が、その後の同協会の状況を勘案し複数の工房の中から選定することが適当と判断しました。選定の条件としては、平山画伯の原画に基づくステンドグラス制作に最適な技術力を有し、かつ記念事業の趣旨を体して從来見積もつてきた予算額の範囲内で制作可能である

ことを考えており、具体的な選定は清家先生イ 資料館

防大は既に資料の収集作業を開始し

に協力を依頼しています。ステンドグラスの製作及び設置には、素材の国外からの輸入並びに多目的講堂の建設に当る防大当局、設計事務所、建設企業との調整が必要であり、それらの時間的所要を考慮して平成11年度中に工房の選定及び平山画伯への正式依頼を行う予定しております。

卒業生コーナーの整備

資料館内に卒業生コーナーを設けて卒業生の活躍状況、卒業生からのメッセージ等を展示することを防大当局と調整しております。このコーナーで使用するソフト等の調度品を同窓会が寄贈する予定です。

### 工 50年史等の編纂

昨年報告したとおり、50年史の正史は防大が平成15年刊行の予定で作成しそのには同窓会関係記事は含まれないことになりました。一方、防大当局は平成14年に小史（縮刷版）及び英文版を発行する構想も有しております。これに対する同窓会の協力要領について今後防大と調整を進めることにしております。

### オ 記念アルバム

同窓会による記念アルバムの作成については、その必要性及び可能性を早急に検討のうえ、平成13年度代議員会に諮る予定にしております。

### (3) 記念行事等（総額約4千5百万円）

防大の公式記念行事は平成14年秋に行われることになると考えられます。同窓会としては公式行事の時期及び内容との調整を図りながら、平成12年度内に同窓会記念行事の構想を固め、平成13年度の代議員会において計画の承諾を得たうえ、実行に取り組む予定にしております。現在検討している事項は、記念講演会又はパネルディスカッション及び講

ており、同窓会としても資料館の展示資料の検討及び収集について防大当局と調整しつつ必要な協力を買う予定であり、今後同窓生の御協力を願い致します。

### ウ 卒業生コーナーの整備

資料館内に卒業生コーナーを設けて卒業生の活躍状況、卒業生からのメッセージ等を展示することを防大当局と調整しております。このコーナーで使用するソフト等の調度品を同窓会が寄贈する予定です。

### 工 50年史等の編纂

昨年報告したとおり、50年史の正史

は防大が平成15年刊行の予定で作成しそのには同窓会関係記事は含まれないことになりました。一方、防大当局は平成14年に小史（縮刷版）及び英文版を発行する構想も有しております。これに対する同窓会の協力要領について今後防大と調整を進めることにしております。

以上の準備状況については、平成11年12月7日の代議員会に報告し、その了承を得ました。

## 3 募金状況

平成11年6月には防大同窓会から全国の各駐屯地・基地司令等に対して募金協力の依頼文書を送付しました。昨年11月末現在の拠金実績は、合計約6千5百名、約9千2百万円であり、この1年間に約9百名の同窓生から約1千万円の净財が寄せられ、拠金率は40%弱に至りました。拠金の細部は別紙のとおりであり、1・2・3・4・6・7・14・15期の各期の拠金率は、50%を超えております。

募金期間は平成10年度の代議員会において平成13年3月末までとすることが決定されており、本年6月頃には募金に応じられていない同窓生各位に対して個別に最後の拠金依頼を行うことにしております。などとぞ記念事業の趣旨に御賛同のうえ、目標額1億2千万円の達成に御協力賜りますようお願い申します。

演録の同窓生への配付、記念マーチの作成・贈与等がありますが、同窓生各位の御意見及び要望の掲示をお願い致します。

また、募金協力者に対しては小記念品を贈呈するとともに、その名簿を作成し閲覧可能

# 防大五十周年記念事業募金状況

(平成 11年11月末日 現在)

期	対象者数	拠 金 者 数					拠 金 額 (×1000円)
		陸	海	空	合計	拠金率	
1	299	141	57	32	230	76.9	5,040
2	308	143	43	42	228	74.0	4,870
3	447	135	51	88	274	61.3	6,020
4	419	139	46	71	256	61.1	5,260
5	491	114	45	65	224	45.6	4,700
6	427	107	56	85	248	58.1	5,140
7	419	108	52	50	210	50.1	4,455
8	414	90	42	52	184	44.4	3,410
9	424	92	56	52	200	47.2	4,410
10	442	101	45	59	205	46.4	3,090
11	462	93	53	51	197	42.6	2,700
12	417	91	47	54	192	46.0	2,470
13	403	77	39	56	172	42.7	2,000
14	461	104	62	84	250	54.2	2,732
15	401	113	50	50	213	53.1	2,295
16	402	93	32	57	182	45.3	2,010
17	455	96	52	55	203	44.6	2,140
18	399	75	54	46	175	43.9	1,870
19	413	94	34	54	182	44.1	1,940
20	356	67	34	36	137	38.5	1,415
21	465	74	52	35	161	34.6	1,850
22	431	70	56	37	163	37.8	1,704
23	378	62	32	34	128	33.9	1,405
24	417	52	44	29	125	30.0	1,270
25	374	66	43	30	139	37.2	1,440
26	469	71	62	41	174	37.1	1,785
27	364	40	63	20	123	33.8	1,360
28	403	53	43	26	122	30.3	1,270
29	414	54	37	28	119	28.7	1,220
30	369	32	30	22	84	22.8	920
31	396	41	27	30	98	24.7	1,000
32	334	39	19	29	87	26.0	890
33	378	44	25	27	96	25.4	970
34	354	50	17	41	108	30.5	1,102
35	439	41	22	21	84	19.1	891
36	340	29	15	27	71	20.9	730
37	366	27	13	24	64	17.5	630
38	425	27	15	26	68	16.0	630
39	338	39	14	25	78	23.1	750
40	376	25	10	44	79	21.0	760
41	403	90	41	26	157	39.0	1,385
42	407	10	0	2	12	2.9	120
合計	16,899	3,109	1,630	1,763	6,502	38.5	92,049

備考 1. 拠金総額

92,748,058円

(1) 真駒内同窓会団体

400,000円

(2) 勝田支部団体

185,058円

(3) 未確認拠金者及び会費等振替

114,000円

2. 利息

471,887円

3. 総額

93,219,945円

4. 募金への御協力お願い致します

(1口 1万、現役1口、OB2口基準、分割でも可)

郵便局振替口座 口座番号 00150-6-352140

加入者名 防大五十周年記念事業委員会

The advertisement features a black and white photograph of a helicopter and a space shuttle. The text "大空へ、そして宇宙へ" (Up into the sky, and into space) is written above the shuttle. The logo for FHI Aerospace is prominently displayed at the bottom.



優勝した6期チームの代表と会長



優勝した7期チーム

第2回防大同窓会期別対抗ゴルフ大会  
7期生が連覇、8期最下位脱出準優勝、1期健闘及ばず無念の最下位  
大会は、開会に先立ち、現役防大生とOBとのエキシビションマッチが実施されました。親子以上の年齢差をものともしないOBが、親子以上の年齢差をものともしないOBの華麗なプレーが出たと思えば、若き学生の猛烈なスマッシュの一歩も動けずといった試合に、拍手やら笑いやらの友好の実をあげるに相応しい風景であった。09:20から、開会式が実施され大会会長（小西同窓会会長）から、「同窓会の縦の枠を深めると共に、試合では思いやりの気持ちを持つて戦うように」との挨拶ののち、昨年優勝の7期生から優勝杯が返還され、大会が開始された。

今回から、9期生が初めて参加し、1チームダブルス5組（10名）で予選リーグ、順位決定リーグが実施された。

昨年と一部試合方法を変更し、まず3チームづつのブロックに別れてリーグ戦を行つた後、各ブロックの1、2、3位同志が順位決定リーグ戦をして順位を決定することとされた。

この結果、優勝は昨年に引き続いて7期、

準優勝8期、3位5期となつた。

2位、3位ブロックにおいても、それぞれ

年齢のみでは計り知れない好試合の連続であつたが、結果的には、4位9期、5位2期、

6位6期、7位4期、8位3期、9位1期で

大会の幕は閉じられた。

試合終了後、学生会館で実施された懇親会には、副校长（2期 北野）、教務部長（4期 金井）及び本大会のため休日を返上して支援に当たってくれた、防大テニス部の学生諸君を交え、和気藹々の内に反省会が行われ、各期の代表から今大会の反省と来年への抱負がスピーチされたが、さすがに1期、2期生からは、今後の試合実施方法について年齢を考慮した提案も出された。

## 第3回防大同窓会期別対抗ゴルフ大会

### 昨年と同じくグロス6期、ネット8期

平成11年10月25日、千葉県山武郡の山田ゴルフ俱楽部に於いて、第3回同窓会期別対抗ゴルフ大会が、1期から9期まで各期陸海空混成で10名の合計90名参加で催された。競技は、6個ホールを同時にスタートし、昼食は9ホール目を通過した時点で俱楽部が準備した昼食弁当を一斉に摂るというショット・ガン形式で行われた。中には、キャディーさんを囲んでティー・グランドの野外喫食を楽しむパーティーもあった。順位成績は、昨年同様に各期上位7名のグロス及びネット（ダブル・ペリア）合計で決まります。成績は別表の通りで、グロス優勝が6期生、ネット優勝が8期生となりました。来年の第4回は10期生の参加が予定され、総勢100名の大所帯コンペとなり益々の盛会が予想される。

#### グロス（ストローク） ネット（ストローク）

1位 6期生	558	1位 8期生	511.4
2位 8期生	562	2位 5期生	512.4
3位 5期生	582	3位 6期生	514.8
4位 9期生	587	4位 4期生	515.2
5位 7期生	588	5位 3期生	520.4
6位 2期生	598	6位 1期生	521.8
7位 4期生	602	7位 7期生	524.4
8位 3期生	608	8位 9期生	525.6
9位 1期生	629	9位 2期生	528.6

## 第2回防大同窓会期別対抗テニス大会

### 7期生が連覇、8期最下位脱出準優勝、1期健闘及ばず無念の最下位

蓄積された技術で信頼にお心えします

**タイキン工業株式会社**

本社／大阪市北区中崎西2丁目4番12号 梅田センタービル  
TEL 06-373-4312  
東京／東京都新宿区西新宿2丁目6番1号 新宿住友ビル  
TEL 03-3344-8058

■特機事業部営業品目

各種彈薬・信管 誘導弾用弾頭・信管 航空機部品

■その他営業品目

ルームエアコン 業務用エアコン 各種冷凍・冷蔵機器  
各種フッ素 化学製品 各種油圧機器装置 各種メカトロニクス  
製品 アーク溶接用ボット等

	8期	7期	5期	順位
8期		x(1-4)	○(3-2)	2
7期	○(4-1)		○(4-1)	1
5期	x(4-1)	x(1-4)		3

1位ブロック

	9期	2期	6期	順位
9期		○(4-1)	○(4-1)	4
2期	x(1-4)		○(5-0)	5
6期	x(1-4)	x(0-5)		6

2位ブロック

	3期	1期	4期	順位
3期		○(3-2)	x(1-4)	8
1期	x(2-3)		x(0-5)	9
4期	○(4-1)	○(5-0)		7

3位ブロック

# 第1回防大同窓会 期別対抗囲碁大会開催

## 初代チャンピオンは6期生

同窓会が主催する各期対抗の親睦・交流行事としてはゴルフ、テニスに次いで第三番目の囲碁大会が、1期から9期のなかから選りすぐられた精鋭棋手2名（各期8名）が一堂に会し、11月21日、日本棋院会館において盛大に開催された。

開会式において、高比競技委員長から「勝負にこだわらず、親睦交流の趣旨をたいし、囲碁を一日楽しんでほしい」との同窓会長からのメッセージが伝達された後、競技実施上の諸注意があり、熱戦の火蓋が切って落とされた。

競技は事前に無作為抽選により決定された対戦表にもとづき、オール互い先、4回戦で実施され、トータルの勝数で順位が決定された。一回戦は7勝の4期と7期が一歩リード、次いで6勝の3期と6期が続き、8期（0勝）、9期（1勝）は出遅れた。

二回戦、三回戦で順調に勝星を伸ばした6期が先行し、僅差で7期、4期、3期が続き、1期、2期も尻上がりに調子を上げ、四回戦を迎えた。最終戦は上位陣が低迷するなか、下位の8期（7勝）、9期（6勝）が若さに物を言わせ健闘し順位をあげたが、6期がそれまでのリードを守って逃げ切り見事優勝した。途中から一名欠の5期は序盤の勢いを守りきれず、1期と最下位を分け合う結果となつた。



成績表

期	勝ち数						順位
	1回戦	2回戦	3回戦	4回戦	合計		
1	2	3	2	5	12	8	
2	2	3	5	4	14	6	
3	6	5	3	3	17	4	
4	7	4	4	3	18	3	
5	5	3	3	1	12	8	
6	6	6	7	4	23	1	
7	7	4	6	3	20	2	
8	0	4	2	7	13	7	
9	1	4	4	6	15	5	

董内、佐古井（6期）、伊東、松井（7期）の紹介があり健闘を讃えられた。

引き続き懇親会が行われ、朝からの熱戦とは打って変わって和気藹々の中で行われたが、「今回の結果は抽選の運不運や、手合い時計不慣れ等が大きく必ずしも実力順ではない。一回戦と四回戦の結果を見れば誰でも判断もあり。来年こそは優勝するぞ」と気勢をあげる事もあった。いずれにしても担当者全員初めてであり不安いっぱいで大会に臨んだが、無事終了し安堵の胸をなでおろした。

# 防大校内カツターチームの参加 競技へのOB艇

4月23日（金）恒例の校内カツターリー大会が

行われ、男子学生の予選レース後の第4レースで、11時10分から女子艇2隻と黒部・旗山岬間の1000メートルで競を競いあつた。

当日は低気圧が関東南岸を東進中でありました。海上模様は北東の風5メートル、うねりはわずかであり、まずはコンディションでした。

スタートは、曳航索を放すと同時に左に回頭しつつの発進となつたが、女子艇がうねりに翻弄されもたつて間に、OBクルーは左右がびつたり同期して左右ともそれぞれ一本のオールに見える程の息の合った力強いオールの捌きにより直ぐさまリードを奪い、以降10艇身、20艇身と水を開け、最後は30艇身の大差をつけてゴールインした。小西同窓会長他海自現職が横須賀警備隊所屬の交通艇上から力強い応援を実施したが、あまりの大差の勝利に、同窓会長からさすがに昔取った杵柄でたいしたものだ、OBクルーの年齢の上限を引き上げるか、男子学生クルーのレースに参加するか…等々のコメントがあり、OB艇世話人としてはこれは今後大変なことになりそうだなど考えながらの楽しいレース観戦であった。



戦斗終了2位はまだこない。ヤレヤレ

で一同胸を撫で下ろしたというレース後の正直な感想でした。

## 短艇委員会OB会発足

総会に引き続いて、懇親会が行われ、2期生から41期生までのOBが青春時代にかえって楽しい思い出に浸つた。席上、短艇委員会顧問吉田氏（37期海、防大指導教官）から、5月22日に呉で行われた全日本カツターリー競技大会において防大クリューが3年ぶりに優勝したときの活躍ぶりが紹介され、会員一同から大いに祝福された。



また、各期代表によるエピソードの紹介など、終始盛会のうちに来年の再会と防大短艇委員会の連続優勝を祈念して散会した。

## 防大同窓会

### 中期事業計画の現状

同窓会本部が小原台から東京都内に移転して、市ヶ谷に居を構えた概ね3年前に同窓会中期事業計画を策定し、第5回「小原台だより」に掲載し、既にその概要を同窓会員に報告しました。その後、同窓会本部で検討すると共に母校の防衛学校本部並びに同窓会員の皆様の御協力を得て逐次実行に移し事業化してきたところです。

#### 中期事業計画項目

##### ホームカミングデーの実施

##### 現職・OB会員交流（地域支部の設置）

##### 親睦交流会の開催（ゴルフ・テニス・団碁等）

##### 相談窓口の設置

##### 講演会の実施

##### 会員の出版への支援 外国人留学生OBとの連携強化 全国的な情報網の整備

#### 1 ホームカミングデーの実施

松本防大校長はじめ学校本部の皆様の御支援御協力を得て、平成12年3月19日(日)に母校で行われる第44期生の卒業式に併せて1期生のホームカミングデーを母校と同窓会の共催で実施する。来年度は2期生を予定しています。

#### 5 情報網の整備

情報化時代に合わせ、本年度末迄に同窓会本部事務局にEメールアドレスを取得する予定です。各地域支部等との通信連絡も手軽に早く出来るようになる。

#### 6 親睦交流会の開催

(1) 昨年に引き続き開校祭に合せ防大を卒業した留学生を母校に招待する学校行事に連携し同窓会長主催の歓迎夕食会を11月12日実施した。本年はタイ3名、シンガポール1名でした。(2) 「防衛大学校卒業留学生との連携推進」

シンガポール支部の発足式

進委員会」を4期生の佐藤幸憲委員長以下6名の委員もつて設置し、現地との諸調整の結果、平成11年6月13日にシンガポール支部を発足した。現地在住の川上泰昭氏(8期・陸)に支部長を委嘱し、31名の卒業留学生を核として活動を開始している。なお発足式は同日現地シンガポールで実施し、小西同窓会長及び渡辺委員(10期・海)が日本から列席し、旗艦且つ友好裏に執り行われた。

#### 3 講演会の実施

同窓会主催の第1回講演会を平成11年3月10日同窓会総会に合せ母校の現在の校長である松本三郎先生を講師にお迎えして実施した。(細部本文参照)今後も同窓会総会に合せ同窓会員各位の関心のある事項を演題とした講演会を実施していく。

#### 4 現職・OB会員交流

中部地域支部の一つの核として関西支部が牧次郎(2期・海)支部長のもと約200名が参加し平成11年11月20日に発足した。小西同窓会長出席のもと同日に大阪で発足式が盛大に執り行われた。

これで地域支部等は4地域支部、4地区支部、1直轄支部体制になったが、いまだ最大の地域である関東甲信越地区が組織化されず、また広島、関西地区支部の上部組織である中部地域支部の設置等まだ多くの課題を残している。

## 国 の 安 全 と 平 和 に 寄 与 す る 技 術

素材とメカトロニクスの総合企業

**JSW 日本製鋼所**

東京・日比谷三井ビル☎3501-6111(大代表)

ホームページ : <http://www.jsw.co.jp>

きっと、もっと、すてきな夢を咲かせます。

**HITACHI**

人間らしさをキーワードに、  
いま私たちの生活や社会には、  
本当の豊かさやゆとりが求められています。  
日立は、どこまでも人にやさしい先端技術を通じて、  
そんな暮らしの夢をひとつひとつ花開かせ、  
豊かな実りをお届けします。

© 株式会社 日立製作所 公共営業本部 〒101-8010 東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地 電話(03)3258-1111(大代)

# 同窓生アラカルト

## 絵画のすすめ

13期（空）柳葉 繫

前略

全自衛隊美術展というものを存知でしょうか。防衛庁主催で2年に一度、絵画、写真、書道の3部門について行われる美術展で、自衛隊員、その家族を対象としております。それでは、結構高いという評価を関係方面から受けております。

「朝雲」「防衛ホーム」等で紹介されますが、「存知でない方がかなりおみえになりました。そこで、まず簡単に説明をいたします。そのべは、結構高いという評価を関係方面から受けております。

ところ、昨年の平成10年度全自衛隊美術展は、私の絵画人生にとって大変意義あるものになりました。趣味で油絵をはじめてからおよそ10年。地元の絵画サークルでの活動が主体でした。どうせやるなら何か目標をもつてという先生の指導で各方面的絵画展に果敢に挑戦し、それなりの結果（自己満足）を出してきました。結果では、違う技術を駆使しての創作でした。結果は、高い評価（文部大臣奨励賞）でした。いわゆる「守、破、離」でいう「破」や「離」の段階なのかと自負しております。審査されたのは日展の寺坂公雄先生でした。寺坂先生は絵画の世界でいわゆる先生として、日展の理事をされておられる方です。自慢ついでにその時の写真を掲載しました。向かって右の方が寺坂先生、左の制服が小学生です。

絵をやつて得すること、いいことはたくさんあります。自分の絵の自慢話はこれくらいにします。

ところで、防衛大出身の特に、自衛官の皆さんは中々芸術を理解してくれず、「絵を描くひまがない」と思つたら、もっとはじめに仕事をやれよ」と言わんばかりの人が結構います。なにも勤務時間中にやつているわけではないのですが残念です。心外です。また、今は、実用主義横行の時代ですから、「絵をやつて何か得することがあるの」とか、「いくらで売れるのか」という話が、冗談半分かもしれないが結構飛び交います。

でも、何かいいこと、得することがあればやつてもいいと言う人がいるのは事実でしよう。「單身赴任のヒマつぶし」「サークルをつうじての清い？交際」「定年後の人の和つくり」「教養が不可欠な海外勤務の充実化」「知的高級幹部への変身」等々、それはそれは沢山あります。その中でも、自衛官にとっても一般企業で活躍されている方にとつても「一番いいこと」は洞察力が向上することだと思つております。

### 絵（芸術）は洞察力を格段に向上させる

「絵（芸術）と戦略はつうじるところがありますから、いわゆる指揮統率が違つてしまいますが、よくあの人の指揮統率振りは素晴らしいといわれる人は大抵「絵（芸術）の良き理解者」です。これは、どうしてでしょうか。洞察力に差が出てしまうのです。絵を描くには洞察力が必要です。ですから、知らず知らずの内に洞察力が向上していきます。私も「もつと早く若く若い時から、絵に首を突っ込んでおけばよかった」と、いま、後悔をしております。感性の豊かな、いわゆる若い（青年幹部）時期から始めるどまた能力の伸びがかなり違うようです。

絵に洞察力が必要とする簡単有名な話を一つ二つします。

「テーブルの上のりんご」を描くとします。形は丸いと思つたらそうじやないのです。リンゴを横に切つて見ると分かりますが、種は5角形であります。それがベースになつて、まるで5角形になっています。だから上からみると実は5角形なのです。

要は、外面だけではなく、内面にも観察が及ばないとそのものの本質にせまれないということです。既成概念にとらわれない物の見方これが必要です。いわゆる洞察力が必要なのです。そ

うでないと絵は描けません。

テーブルにあるカバーの色をみてみましょう。グリーンです。よくみてみるとリンゴの赤が反射しています。リンゴの下の方は黄色ですか

黄色もテーブルクロスに写つています。逆にテーブルクロスのグリーンがリンゴに写つてます。よくみると事実そうなのです。物事の関連性についての洞察も自然と身についています。ただ、どうしても筆をとつてキャンバスに向かって、できない人はせめて絵を鑑賞する機会があります。からしたら積極的にやってみることをお勧めします。かなり違います。

絵（芸術）によって、洞察力が向上し、いわゆる素晴らしい戦略眼を持つことができます。われわれ、特に自衛官が主として相手とするものは社会科学の範疇の分野です。

防衛大在校間あるいは卒業後受けた教育を補つてあまりありません。絵を描く人は普通の格好をしています。いわゆる芸術家といふ姿、格好はしていません。普通のおじさんやおばさんです。展覧会での作品の悪口や批評めいたことをいつていると、あなたの隣に作品の作者がいることが多いのです。特にご注意を。

### 絵画鑑賞で「さすがは……」と感ぜらせる。

とは言うものの、しかるべき立場に立つて初めて絵の鑑賞を仕事柄しなければならないという方がほとんどだと想いますので、そこで、以下絵画鑑賞でのポイントを1つ2つ述べます。



## バリ島の過ごし方

3期（海）浮田 尚家

第2の職場、NEC在籍時に、偶々運輸省傘下の「海外コンサルタント協会」でコンサルの資格を得、同協会の空港の無線通信、航法援助装置、航空管制などの登録コンサルタントになっていた関係で、ヒヨンなことから、昨年6月から現在、コンサル会社からの依頼もあり、インドネシア・バリ島で日本のODA案件の「パリ国際空港第2次近代化計画」に携わり、昨年来4回に亘りバリ島を出入りしているので、既にバリ島観光をされた方もあるが、「バリ島の過ごし方」のひとつを紹介しよう。

はこういう分野でも見識があります。自分で描く、描かないは関係ありません。展覧会で何々賞をとつたもの、著名な作者の傑作を目の前にしたらどんな人も感心します。しかし、それまでよいのです。それは作者の思想があります。ですから受けた印象を、感じたまま話をせばよいのです。それは作者の思想と離れていてもよいのです。

また、絵の技術的な面を言いたいなら、色合がすきだ。全体の雰囲気が好きだ。コクがあって好きだ。どういうに好きな所を言えれば良いと思います。「いい悪い」はやめるべきです。絵を描く人は普通の格好をしています。いわゆる芸術家といふ姿、格好はしていません。普通のおじさんやおばさんです。展覧会での作品の悪口や批評めいたことをいつていると、あなたの隣に作品の作者がいることが多いのです。特にご注意を。

最後に見方でこの人はなかなかと思われる見方の1つです。絵の四隅をみてみます、素晴らしい作品は四隅の色合い、タッチ、描かれているもの、絵肌がそれぞれ全て違います。この辺のことを知ついたら、かなり違います。「あなたが相当、おやりですネ」「さすがは……」でじております。

はこういう分野でも見識があります。自分で描く、描かないは関係ありません。展覧会で何々賞をとつたもの、著名な作者の傑作を目の前にしたらどんな人も感心します。しかし、それまでよいのです。それは作者の思想があります。ですから受けた印象を、感じたまま話をせばよいのです。それは作者の思想と離れていてもよいのです。

また、絵の技術的な面を言いたいなら、色合がすきだ。全体の雰囲気が好きだ。コクがあって好きだ。どういうに好きな所を言えれば良いと思います。「いい悪い」はやめるべきです。絵を描く人は普通の格好をしています。いわゆる芸術家といふ姿、格好はしていません。普通のおじさんやおばさんです。展覧会での作品の悪口や批評めいたことをいつていると、あなたの隣に作品の作者がいることが多いのです。特にご注意を。

最後に見方でこの人はなかなかと思われる見方の1つです。絵の四隅をみてみます、素晴らしい作品は四隅の色合い、タッチ、描かれているもの、絵肌がそれぞれ全て違います。この辺のことを知ついたら、かなり違います。「あなたが相当、おやりですネ」「さすがは……」でじております。

ご存じの通り、パリ島は南緯7度くらいに位置し、気温は年中32~34度くらい。

11月から翌年4月頃までが雨期、雨期でも日本のある梅雨と違い1日に1回以上激しいスコールがある程度、それ以外は乾期で湿気もなく日陰に入れば、ヒンヤリする。汗もさほどでない。

最近の大統領選挙などのように変動するか判らないが、貨幣価値は日本と比べて、1/10

1/6、従つて、日本人にとっては生活しやすいのではないだろうか。今年の春にも日本の若者が「旅の恥はかき捨て」の如く、傍若無人に振る舞つていたのが見受けられた。

横道に脱線したが、この状況で、旅の目的は、

①落ち着いて、ゆったり過ごし、リッチな気分に浸る。

②運転手付きの車をチャーターして、のんびり観光する。

③ホテルのプールサイドのデッキチエアで、海岸の波、雲の動き等眺めて過ごす。

④空気が澄んでいるので、南十字星や他の星、人工衛星などを眺める。

これらその他に、7~8世紀に建造された寺院が3~4箇所、火山地帯の観光、野生の猿など、まあ、1週間か、10日もあれば目的を達するのではなかろうか。

日本人観光客にとって、車の使い方が問題。タクシーは概してボラレル。料金を誤魔化すもの、ルートを伸ばして料金を高くするもの、外人特に日本人にはつり銭は絶対に出さない、などなど。現地の知人とコンタクトして、安心な運転手をチャーターするのが得策。最後に、注意しなければならないことを、紹介しておく。

①パリ島は、敬虔なヒンズー教徒が人口の9割りを占める。従つて、宗教の話題、冗談事は禁物。

②野生の動物、犬、鳥などを苦めないこと。それ以外は、観光ブックに書かれているでしょうから、参考にして、「ユッタリと時の流れを」味わつてもらえば結構です。

## 抵抗(50歳を迎えて)

17期(空) 高草俊夫

先日、携帯電話を買い替えた。最近話題のIモードというヤツだ。

この電話、使つてみると大変な代物だ。電話というより携帯端末というほうが正しい。

これ一台で電話はもとより電子メール、インターネットアクセス等いわゆる素人が使うパソコン並みの機能を楽しめる。その機能もこれからどんどん発展するという。2年前にはこれに画像まで加わるらしい。5~6年前に携帯電話が売れた時は、親子電話の子機が外へ歩き出した程度にしか思つていなかつたが、今度はちょっとびっくりさせられた。パソコンの世界でインターネットが流行りだした時以上の驚きた。

この携帯電話の急激な発展に代表されるように、ここ数年の情報化のスピードは凄まじいばかりだ。昔、米軍のMILSPECを入手するのに多大な時間とお金を使つていたのが、今やパソコンのキーボードをたたいて1分もかからないで、しかもタダで入手できる。会社では上下関係を超えて情報が飛び交い、時には若い社員が社長に直接メールをうち、部長が社長に怒られるといったことまで起つ。いつでも、どこで

も、誰とでも情報を共有できる世の中がすぐそこまで来ている。インターネットの広がりは情報世界の国境を無くし、一般社会では組織の上下構造を壊しはじめ、ビジネスには何よりもスピードが要求される時代になつた。

当然、企業も社会も否応なく変革を求められる。それを良い時代が来たと考えるか、大変な時代になつてしまつたと考えるかはそれぞれ勝手だ。一般的には若者は前者、おじさん方は後者だろう。夢多き若者は、ビルゲイツに代表されるベンチャー企業を自ら起こうと虎視眈々だし、おじさん方は過去の既得権を守りながら平和な老後を夢見ている。いつの時代も同じだと言わられるかもしれないが、どうだろうか。

あと何十年(?)生き

られるか分からぬが、過去の思い出だけで生きるのは、あの世に行つてからでよい。最後までその時代を素直に感じ、楽しんでみたい。

だから無理して最新の携帯電話を持ち、電車の中で若い女の子と競つて、安くてうまそうなレストランを検索する。何とか時代について行きたいの一心で。



## Your Partner for Success

Mitsubishi Corporation

三菱商事

情報産業第三本部(宇宙航空)

〒100-8086 東京都千代田区丸の内二丁目3番1号

(03) 3210-4595



## 株式会社 マリンユナイテッド

本社

〒104-0042 東京都中央区入船2丁目1番1号

住友入船ビル

電話 03-5543-4811 FAX 03-5543-4810

〒135-8731 東京都江東区豊洲2丁目1番1号

(石川島播磨重工業K.K.東京第一工場内)

電話 03-3534-2760 FAX 03-3534-2762

〒239-0822 神奈川県横須賀市浦賀町4丁目7番地

(住友重機工業K.K.浦賀船工場内)

電話 0468-46-2031 FAX 0468-46-2141



## 3期生会

3期生は西暦2千年をもつて入校45周年となります。これまで3期生会（現会長朝比奈喜雄（航空））としては慶弔事の他、節目にはまとまつてパーティー等のイベントを実施してきましたが通常は陸、海、空別に活動していますので以下それらの近況を紹介します。

石田一郎（海上）記

陸上3期生会は、北島壽一会长以下、会員248名、準会員（逝去者家族）16名が北海道、東北、関東（本部事務局の直轄）、中部、関西、四国及び九州の8支部にわかれています。総会は、毎年11月第3金曜日にグランドビル市ヶ谷で実施し、1年間の本部及び各支部の活動状況の報告の後、会員、会員家族及び準会員で懇親会を実施しています。不定期ながら「同期生会ニュース」の発行、同期生による年金相談の事業化、自衛隊各種行事への参加斡旋など、二度目の定期会を迎えて衰えがちな同期会への求心力の維持に努めていますが、評価はいまいちのようで、事務局の腕が問われている状況です。そのようななかで一番の明るいニュースは、皆様ご承知のように「女性宇宙飛行士」候補に、我が同期角野明人君のお嬢様が選ばれたことです。ど

うか、皆様長生きして一緒にアメリカまで応援に行きましょう。  
佐藤茂美記

海上要員として卒業した者は97名、以後、事故・病気等で9名が他界され、現在88名です。このうち半数近くの者は、第2の仕事を終え、悠々自適の生活を過ごしておりますが、いまだ社会の前線で、会社役員、顧問あるいは市会議員という重責にある人々も多く、3期生としていつそうの活躍を期待しているところです。海上3期生は防大卒のみのクラス会活動ではなく、江田島の幹部候補生学校卒業者が一緒になった「十期和会」というクラス会を作り活動を続けております。活動の主なものは、年2回の会報発刊、旅行、懇親会等です。昨年秋、「幹候10期」に因んで平成10年10月10日に江田島方面研修旅行というやや大きなイベントを終了したところです。また、今年度末には、海上クラス会発足40周年記念総会を計画しております。  
佐々木邦秀記

4期生会は昨年、会長、役員の一部が交替し、活躍頂いた林崎君以下の前スタッフの業績を、継承してゆきたいと念じております。我々の平均年齢63歳、第2の人生もそろそろで、昨年全面改訂した同期生会名簿（新草）も、勤務先欄不要の意見が出る年頃となりました。とは言え、ドライバーの飛距離を未だ追いかけている剛の者、未だ強く成れるのではないかと妄想している碁愛好者等が散見される解説出来ない年齢層もあります。人生は勝手なもの、若い頃、あんな年令になつたら……と嘆いたその歳になつても、年令なりの生き甲斐、充実感を求めるのは当然の業でありましょう。そんな時、同窓会・同期生会の存在が何らかの支えになれば、それに越した事はないと考える次第です。

昨年初夏、小野忠士君が、心機一転勤務先を退職、次なる人生への第一歩として、四国八十八カ所巡礼の旅をやつてのけました。勿論、リヤカー引いて徒步野宿の本格的お遍路さん…。彼を知る者には、如何にも「らしい」行動ですが、その後髪を剃った事もあり、高僧の雰囲気を漂わせ精神的満足感が同われます。他の同窓生の方々も、トライしてみては如何でしょうか。

6期生会の活動状況について、ここ1年を簡単に報告しておきます。

6期生会は、本部と北海道、東北、東海、近畿、中・四国および九州の6支部で活動しております。

まず、本部は、「総会・懇親会」を、毎年6月6日6時6分からグランドビル市ヶ谷で開催し、約150名が参加しています。また、「昼食会」を、毎月6日にグランドビル市ヶ谷で実施し、情報交換の場にしています。

6個の各支部は、年に1~2回、家族を含めて集まっています。昨年は、東北（7月、松島で1泊13名）、東海（12月、浜松）、近畿（10月、舞子で1泊）、中・四国（5月、道後温泉で1泊25名）、九州（6月、博多で1泊22名）といったところです。

また、6期生のマスコミに強い：池田（歴史）、柿谷（正論）、茅原（中国）、桑原（防衛制度）、橋本（海戦）、服部（空戦）、長谷川（憲法）、藤原（米欧情勢）、室本（軍事技術）、森（防衛制度）、森田（ヘリコプター）、山口（軍事）、山本（軍事英語）、若林（潜水艦戦）、渡邊（海自）君たちが、著書の出版、新聞・雑誌への投稿、テレビ出演や講演活動を活発に実施中です。

防衛庁勤務者は、夏川統幕議長、渡邊陸幕長・村木空幕長が退官したので、4名（防衛大3教授、防研1名）になりました。かつ、還暦を、ほぼ通過完了しました。

航空について最近の状況を簡単に紹介します。航空3期全体としての活動は年2回の会合で、御婦人方を交えての春の総会と、暮れの男だけの忘年会で、毎年盛況のうちに実施しており、旧交を温めております。また平成2年1月以降、年5乃至6回航空3期生会報「なすび」を発刊し、今年の7月27日号で54号目となりました。内容は、

各地域毎のグループの活動状況、年金の話、健康管理の方法、同窓会活動の紹介、個人の現況等々で、編集者はボランティアが毎年交代しています。そのほかゴルフ同好会も盛んで、主としてTBS越谷等でプレイし、今年の9月23日には50回目を迎え、記念大会として熱海に泊まりがけで賑やかにやりました。第2の人生も、半数以上が卒業した現在、益々同期の絆の大切さを感じる今日此頃です。

妹尾起作記

同窓会活動も50周年記念事業、親睦交流会を始め、ホームカミングデー、情報網整備等関係者の御努力で年々充実していく様子にて、大変結構な事と存じております。わが4期生は、それぞれに、参加する事こそ重要なモットーに、構成員の一翼として存在感を示してゆきたいと考えております。

6期生会◆会長　一西田　憲正

## 7期生会

◆会長 伊藤 悅

還暦——遠い彼方の話として聞き流してき  
た我々7期も、気がつけば、自分自身がいつ  
の間にかその立場になつて、どうやら口にす  
る話題も孫のことや、体力の愚痴が次第に多  
くなつた様な気がする。

とは、言うものの、最大公約数的な捉え方  
で申せば、今の7期の立場ぐらいが、人生の  
中で一番充実した、人生の享受が可能な時で  
はなかろうかとも思つてゐる。つまり

①社会的・家庭的に一応の責任を果たし、

自他共に認める一つの区切りの時期。

②体力的に多少衰えたりとは言え、まだま  
だ不都合はない。

③経済的にも、時間的にも、多少の融通性

等にがその理由。

同期の仲間を見て、現役時代よりもむしろ  
滲刺さを感じることが結構ある。特技に、趣  
味に益々意気盛んな者、信じられない様な才  
能を發揮する者、相変わらず講釈の多い者等  
に、まだまだ還暦とは言え、気持は青年時代  
ぬけやらぬ意気盛んな集団である。

人は信念と共に若く、人は自信と共に若く、  
人は希望ある限り若く  
どこかで聞き覚えのある文句だが、今の7期  
のモットーでもある。

## 9期生会

◆会長 益田 兼弘

「九期生会」の再発進なる。

小原台卒業以来はや35年、ほとんどの仲間  
は退官し、現役で依然として苦労を続けてい  
るもののが若干名。お互いにこの歳になると妙  
に寂しくなるもので、遊び仲間や呑み友達が

恋しくなるもの。若かりし日の無邪気な空氣  
に触れたくなるもの。

平成10年秋、何とはなくこの様な話となり、  
「まずは東京で懇親会でも開こうや」と言う

ことになり、11年2月にグランドビルで60名  
以上の参加をみて盛大に実施された。名前と  
顔が一致しないとか、余りの変わりように互  
にそれと気が付かない等で珍妙な会話が交  
わされる場面が所々で見られたが、たちまち  
にして解消し和気藹々のうちに懇親を深め  
た。

卒業時は確かに「九期生会」は存在したの  
だが、その後、幹部候補生学校の同期会とし  
て陸、海、空ことに、あるいは各地区ごとに  
活動していた。したがつて防大同窓会本部か  
らの問掛けに対する受け皿があいまいになる  
という不都合が生じていたので、この機会に  
一度再発進した次第である。もとより同期  
生全員の同意を得て発進するのが手順ではあ  
るが、いささか大雑把集團であることもあり、  
省略させて頂いた。お許しください。

一応、会則も役員も定めたが、今までの經  
緯や、陸海空ごと、あるいは各地区ごとの活  
動を損なわないようにと、出来るだけファジ  
イなものとしました。

ちなみに、海は藤田、空は鈴木、陸は益田  
がそれぞれ代表で、全体としては、益田が会  
長となることとなつた。これも順番は陸海空  
という都合のよい理由で、席上で決められた  
もので、甚だファジー。

平成12年も2月に東京地区で懇親会をと計  
画中です。「一番暇そうな時期なので。

とにかく「遊び仲間の再構築」が主眼です  
ので、……もつとも口の悪いものに言わせる  
と「弔辞の読み人探し」だそうですが……  
奮って御参加を。

ご意見あらば、御一報を。

## 17期生会

◆会長 石井 光政

昭和44年、東大紛争のあたりを受けて東大  
の受験がなく、赤門をくぐる実力を持ちつ  
も小原台の地に一步を記した第17期生は、  
14・15・16期の各先輩の暖かくかつ厳しいご  
指導を受けて素直にかつ逞しく成長し、昭和  
48年、着校時と同じく桜の花咲く小原台を東  
立ちました。

その数、497名（陸299名・海106名・空122名）。  
その後自衛隊外に活躍の場を求めて退職した  
者105名、志半ばにして他界した者11名（内殉  
職者、陸2名・海1名・空2名）で、現在国  
防の任についているものは381名（陸214名・海79  
名・空88名）です。

昨年は卒業25周年を迎えて、北海道から沖縄  
まで全国で各地区毎、陸・海・空の有志が集  
まり旧交を温めました。さらにその様子を中心  
に25周年史を編纂し、自衛隊外で活躍の会  
員も含め全員に配布したところです。

自衛隊生活をマラソンに例えればすでに折  
り返し点は過ぎ、ほとんどの者があと7年前  
後で第2の人生を迎える年となり、頭が薄くな  
った者、白髪が隠せないほど多くなった者、  
腹が出てる者、はたまたすでに孫ができる  
者等々、卒業後の変化は様々ですが、25周年  
パーティではすっかり昔に戻つて楽しい一  
時を過ごしました。

今まさに統合の必要性が叫ばれ、その実行  
性の確保が話題になつていますが、そのため  
には陸・海・空の意思の疎通が重要であり、  
その面では今それの組織において実行の  
中心として極重要な地位を占めている私たち17  
期生の交流をこれからもさらに活発にしてい  
く必要があるものと考えています。

防大では私たち在校の頃の5大隊制から4  
大隊制に変わり、文科系もでき、現在は本館  
の建替え工事が急ピッチで行われる等、制度  
も環境も大きく変化しているようですが、建  
も

学の精神は脈々と受け継がれているようであ  
り、現在のよう大きな社会変化の中にあつ  
ては益々その重要性が増しているよう感じ  
ています。

防大同窓会はこの精神継承の重要な機能を  
果たしており今後のさらなる充実と発展をお  
祈りする次第です。

## 23期生会

◆会長 岩本 豊一

23期生会は、11年4月17日(土)G.H市ヶ谷に  
おいて卒業20周年を記念して、横須賀での10  
周年記念行事に引き続き、第2回目の期生会  
を開催しました。

開催にあたりましては、  
準備委員長堀  
口君(現陸幕  
装計企画班  
長)をはじめ  
といたしまし  
て多くの目黒  
入校学生の皆  
さまのご協力  
のおかげをも  
ちまして実現  
に至りました。

参加状況は、  
地理的な条件  
もあり関東周  
辺勤務者が主  
体となりまし  
たが、民間で  
活躍されてい  
る同期生も含  
め約120名弱も  
の同期生が集  
まりました。



その数は相対的には多い方であり、参加者は同期生間の強固な団結の一端を感じていたようあります。

また、当指導官でお世話になりました大島順一先生ご夫妻にもお忙しい中駆けつけていただき、変わらぬ熱意と愛情をもって現時点に則した暖かくも大変貴重なアドバイスを頂くなど、非常に充実した会合となりました。その他、この会合では卒業以来未整備であった会則を定め、それに基づく新役員を選出いたしました。選出メンバーは次のとおりであります。

会長	陸.. 岩本豊一
(卒業時に引き続き留任)	
副会長兼陸分会長	.. 濱崎久実
総務幹事	.. 海分会長.. 吉田正紀
"	空分会長.. 森田公治
会計幹事	.. 陸.. 海沼敏明
会計監査	.. 海.. 細谷正夫
同窓会評議員	.. 空.. 井下佳久
	.. 海.. 吉田伸藏
	.. 空.. 石木尚昌
	.. 陸.. 岩田清文
	.. 海.. 高橋忠義
	.. 空.. 池辺 正

(11年4月17日選出時現在)

これからもよろしくお願ひいたします。また、役員は、新会則では中央勤務者を主体に構成するように定めているため、異動の都度これから多少の変更もありますが、ご了承下さい。

期生の皆さまには、この場をお借りしましてお詫び申し上げます。

これからもよろしくお願ひいたします。また、役員は、新会則では中央勤務者を主体に構成するように定めているため、異動の都度これから多少の変更もありますが、ご了承下さい。

年目を過ごしています。

末安雅之（ベトナム）.. 防衛交流も活発なり、高官のアントンも経験。ハノイの高級住宅街に住み、中越国境にも足を伸ばしました。

成田千春（アメリカ補佐官）.. 山口将輔の下、緊張感を持ちながらも脂の乗りました3

度のなか家族共々元気に生活しています。

吉田浩介（ロシア）.. 歴史的な出来事や場面に遭遇しているという満足感と、明日はどうなっているのか判らないと言う不安を抱きつつ、厳しい気象条件を克服し、家族と力を合わせ日々生きていることを実感しながら、近い将来ロシアがよき隣国となるよう汗を流しています。

この3名に加え、石井義哲（フランス予定）が外務省で研修中です。

海上の同期では4名が駐在武官として各任地で次のとおり活躍しております。

近藤誠（サウディアラビア）.. 映画館や遊園地は存在せず、禁酒、禁豚の中、サッカーを楽しみにがんばっています。

杉原耕二（インドネシア）.. 東チモール問題等、懸案事項で大忙しです。ブール付きの一戸建てとドイツ車に乗ることを夢見ていますが、治安情勢を考え、セキュリティの良いアパートに日本車になってしまいまして。

高山忠（韓国）.. 着任してすぐに南北の統撃戦がありましたが、引っ越ししたばかりで何もわからずのんびり過ごし、日本人会の皆さんに安心感を与えました。

伊藤俊幸（アメリカ）.. 朝はベンタゴン、昼は電報書きと大使館内の調整、夜はレセプションとお客様対応で大忙しです。この4名に加え、伊藤元万（イタリア予定）が外務省において研修中です。

航空の同期では3名が駐在武官として各任地で次のとおり活躍しています。

木村和彦（ジュネーブ軍縮会議日本政府代表部）.. アルプスを望む風光明媚な多言語国家イスラーム湖名物140メートルの大噴

## 25期生会 ◆会長 — 高鹿 治雄

山下純夫（中国）.. 建国50周年を祝う国慶節の軍事パレード（天安門広場）は壮大なものでした。大人の風格を備えつづる昨今で完備しています。

遊佐宏文（ミャンマー）.. 筆まことに電報を送っています。邸宅は車寄せにメイド多数を完備しています。

我々25期生も卒業して早18年が経過しました。この道程において、残念ながら志半ばにした2名の有為の人材が空に散りました。我々は、彼らの遺志を継ぎ、我が国の平和と安全に尽力することが残された者の務めであると考えております。

それぞれの御遺族に対しては、毎年、命日の近辺において有志による墓参りを実施するとともに、御遺族を訪問して思い出を語る等の活動を行っております。来年はそれぞれ、十二三忌及び七回忌の法要の年にあたり、同期としても心新たに区切りとしての年にするため、関連行事等について計画中です。

さて、我々は現在、部隊にあつては大隊長、艦長、飛行隊長等の指揮官、また、主要幕僚として、そして、中央にあつては中堅の幕僚として重要な配置を与えられる年齢となりました。また、民間においても、それぞれ会社の極重要な地位において活躍しております。

それぞれとの与えられる配置は多種多様ですが、今回はその中でも補職がピーコクとなつている駐在武官に焦点を当ててその活躍を紹介します。

陸上の同期では6名が駐在武官として各任地で次のとおり活躍しております。

富樫勝行（オーストリア）.. 全欧安保協力會議のフォーラム担任として、ウイーンの街並みに似合う男のセンスにも磨きをかけています。

成田千春（アメリカ補佐官）.. 山口将輔の下、緊張感を持ちながらも脂の乗りました3

度のなか家族共々元気に生活しています。

末安雅之（ベトナム）.. 防衛交流も活発なり、高官のアントンも経験。ハノイの高級住宅街に住み、中越国境にも足を伸ばしました。

水を眺めながら軍縮会議に取り組んでいます。通常の防衛駐在官とはかなり異なる業務ですが、地雷の会議で世界中を飛び回ります。

木村達人（フィリピン）.. 世界の趨勢がアジア重視となりつつある中で、益々やりがいのある勤務となっています。年平均気温約28度のなか家族共々元気に生活しています。

吉田浩介（ロシア）.. 歴史的な出来事や場面に遭遇しているという満足感と、明日はどうなっているのか判らないと言う不安を抱きつつ、厳しい気象条件を克服し、家族と力を合わせ日々生きていることを実感しながら、近い将来ロシアがよき隣国となるよう汗を流しています。

この3名に加え、石井義哲（フランス予定）が外務省において研修中です。

今回の「期生会だより」への投稿に当たっては、岡崎（陸幹校）、徳丸（海幕）、坂本（空幕）と民間に移った杉山等の協力を得られましたことを感謝します。いよいよ来年は、20世紀の最後の年です。我々25期は21世紀の幕開けの年となる2001年に、卒業20周年を迎えます。激動する自衛隊でがんばる者、厳しい社会でがんばる者、それぞれに歩んでいく道は違っていても、嬉しい時、苦しい時、どんなときでも心から頼りになるのは同期です。25期の團結を改めて確認し、お互いを励まし合えるような20周年記念行事を期生会で企画したいと思います。ひとりでも多くのみんなと再会できることを楽しみにしています。

## 30期生会

◆会長　一堀切 光彦

「住所録を肴に一人酒はいかが?」  
ご無沙汰しております。30期生の皆さんお元気ですか?

私事ながら、堀切は、去る8月末に7ヶ月にわたるゴラン高原での任務を終え、部下隊員達と共に無事帰国いたしました。報告等で檜町に出向きました際、陸幕で働いている同期諸兄が帰国を祝う宴をしてくれまして、久々に数十名の同期諸兄の顔を拝見する機会を得ました。やはり、同期というのは有り難いものです。

さて現在、期生会の活動で唯一機能しているのは「住所録の整備」です。毎年一回、年賀状のシーズンの前を目途に、名簿担当者がまとめ近傍の同期の力を借りて、印刷・製本・封・宛名書き等をして皆さんのお手元に届いているはずです。この住所録を参考にして、仕事で困ったとき同期に手助けしてもらうよし、年賀状の宛名書きをするよし、近傍に所在する同期で集まって何かの機会に宴会をするよし、せっかくの住所録を活用し、同期生各位の更なる親睦の一助にしていただければ有り難いと思います。

私の場合、ゴランでもそうでしたが、日々の仕事の俗塵にまみれる今日この頃、息抜き策として時折住所録を眺めながら一人酒を飲むのが楽しみの一つです。私の手元にあるのは平成10年12月の期生会作成の住所録で、いささか古いですが、同期諸兄が今どこで何を「亦樂しからず也」。例えば、「まず、住所録を手にとって眺める。懐かしい同期の名前があつたが中隊長か?」なんて独り言を言いながら一杯、…といった具合です。陸自では中隊長をやっている同期が多く、I上君はヒ

ーンといなながら、O塚君は微妙に音階がはずれる歌を歌いながら、H野君は早口で「だつて、だつて」と言い訳しながら、M田君は定年前に上番した叩き上げのような勇姿で、…それぞれの中隊長姿を思い浮かべるだけで十分酒の肴になります。海自では艦艇の船務長・砲雷長・整備長・運用長等になつている者、空自では飛行隊等の部隊勤務している者が数名いるほか、陸海空共に部隊勤務より司令部勤務で激務に就いている者が多いようですね。また、社会で活躍している諸兄が、メーカー・商社等の様々な会社や警察・役所等の官公庁が勤務先になつてているのを見るのも楽しみですね。「そんな年代になつたんだなあ。俺も年をとったわけだ。」などと老成したような独り言を言いながら同期諸兄の活躍ぶりを想像するのは面白いのです。

そんな住所録も、その整備には同期生各位のご協力に負うところ大なので、是非とも、名簿担当者(各教務班の名簿係り又は責任者)は山口君へ外線03-33933-1161内線8-311-2387に住所録情報を(自分自身をはじめ他の同期の動きがあつた時点で知っている限りの情報を)あげるように宜しくお願いいたします。例えば、名簿に書いてある情報に誤りがあつたり、住所不明になつている同期の住所を知つているとか、こういう情報は個人の持つている情報に依存せざるを得ません。なにとぞよろしく。

ではまた、ごきげんよう。

## 33期生会

◆会長　一中塚 千陽

まず会計報告ですが、佐伯君の葬儀に花輪代1万2千円、土田元学校長葬儀に香典3万円を使用しております。以降、年度末の監査結果を次回発行の小原台だよりで報告していくようにします。なお、残高についてはここに載せることが適當でないと思りますので、

載せません。ただし、メールアドレスがわかつて、だつて、…といった具合については、決算報告をメールにてさせていただくつもりです。

佐伯君の葬儀の時に問題となつたのですが、今後、期生会費の使い方として、次のようにしたいと考えています。

「平成39年(同期の一一番若い者が50歳になる年)までに死亡した同期については、期生会から花輪または相当額の香典をだす。平成40年以降の処置についてはこれから考えていいかと思います。この件について、ご意見等ありましたら、期生会長までお願いします。なお、メールアドレスをお持ちの方は、通信費軽減のため、お知らせください。宛先は:habu@ma4.jstnet.ne.jp

Kawasaki

21世紀の空を拓く。

KAWASAKI OH-1

航空宇宙事業本部  
〒105-6116 東京都港区浜松町2丁目4-1(世界貿易センタービル)  
電話:(03)3435-2111 フax:(03)3436-3037

川崎重工

MITSUBISHI  
SOCIO-TECHの三菱電機



41万画素の高画質が用途を広げるコンパクト赤外線カメラ

### IR-M700

- 世界最高水準41万画素(801×512)の高画質
- 雑音等価温度差0.08°Cの高感度
- 5kg・4.2kgの軽量・コンパクト
- 45Wの低消費電力
- マルチ電子ズーム(2、4、8倍)、電子スクロール機能、画面フリーズ機能付

用途に合わせてお選びください。  
IR-M300:6万6千(256×256)画素  
雑音等価温度差0.2°C

NEW 非冷却タイプ  
IR-U300M1:8万(320×240)画素  
雑音等価温度差0.2°C

IR-M700/IR-M300/IR-U300M1

三菱サーマルイメージヤ

●お問い合わせは…三菱電機株式会社 本社 監視・管制システム営業部 〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-2-3 電話(03)3218-3370

三菱電機株式会社

# 支部だより

## 北海道地域支部

支部長 榎山 貢

北海道地域支部は、平成9年9月に同窓会本部の強い要請により「先ず発足ありき」で、急速結成しました。

当地域支部の特色は、会員が圧倒的に現職会員（900名・30個支部）が、多く、退職会員は、僅か100名に過ぎません。現職の転勤等もあり役員の交代も多く、なかなか活動しにくいのが現状です。

この2年間は、各支部の基盤整備に努め、

地域支部としては、役員選出、理事会・代議員会の開催等以外事業らしい事業は、実施していませんでした。

平成11年度に入り、そろそろ基盤整備の「ケジメ」と何か「事業」を始めようといふ声が強まり代議員会で次の事を決しました。

組織の基盤整備の柱となる1「会費の徴収」2「名簿の作成・配布」また、事業として、「後輩道地域支部の事業のボリシーとして、「後輩（学生）に対する役に立つこと」また「地方として轻易に実施できる」この2点から、選びました。

今後も防大同窓会が、永遠に不滅である組織である以上、当地域支部は、焦らず「一步着実」に「後輩（学生）のため、役に立つ活動」を、計画・実施していく所存です。

# 東北地域支部

支部長 阿部 賢吉

防大同窓会東北地域支部（通称「東北防大同窓会」）は、平成11年2月27日に発足式を行い、今年度から本格的な活動を開始しました。

発足式は、本部から君嶋事務局長（会長代理）を迎、仙台市内のホテルに東北各地の陸海空現役・O.B.有志約110名が集まり、盛大に東北地域支部の設立を祝いました。

「東北防大同窓会」の会員数は約830名ですが、うち9割強が現職会員で占められております。したがって、今後の会運営に当つては、特に現職会員の積極的な参画に期待しております。

また、下部組織として、すでに現在結成準備中の1～2支部が結成されると東北全域を完全にカバー出来るので、その結成促進を図りたいと思っています。

活動開始初年度の今年度の「東北防大同窓会」の運営は、各支部ごとに組織整備に努めることを優先し、会の計画事業は、4／四半期の「代議員会」のみを予定しています。

平成12年度は、引き続き各支部の基盤強化を進めながら、支部・会員の交流・親睦・財政基盤の整備、50周年記念事業の準備等に関する事業を計画して行きたいと考えています。



平成11年2月27日  
発足式で挨拶する  
初代会長  
阿部 賢吉氏（3期陸）

# 九州地域支部

事務局長 道下富士雄

平成11年度九州防大同窓会（会長：2期空中野純人）の活動状況についてご報告いたします。

第1の事業は、UNDOF派遣隊（第7次・第4師団、第8次・第8師団）に対する激励金の募金・贈呈がありました。

九州地区退職会員のうち有志（約250名）から净財を募り、野中第4師団長と備後第8師団長にそれぞれ贈呈し、UNDOF派遣隊を激励した次第です。

第2の事業は、九州防大同窓会および熊本・大分・宮崎各県の同窓会旗の作成・配布についてあります。

昨年度の当同窓会総会では本部から校旗を借用したのですが、校旗はわれわれ防大卒業生の心のよりどころでありシンボルでもあるわけで、是非この際作成して欲しいという要望により作成したものであります。

この写真は、九州防大同窓会旗と事務局の主要メンバーですが、各県同窓会には「各県名を入れた同窓会旗」を作成し配布しました。



# 沖縄地域支部

事務局長 湯浅 美芳

沖縄地域支部は、平成9年11月に発足して、現在、小西忠（1期海）会長のもと、O.B.11名、現役215名計226名で活動しています。

事業として、総会及び懇親会、防大生部隊

実習等支援及び懇親会、防大入校者への記念

品贈呈が主な内容です。

特色的ある活動として、沖縄寮歌祭への参加があります。沖縄寮歌祭は、過去27回開催され、毎年2月全国各地の旧制高校及び同志校OBが、那覇に集い各校の特色を出して寮歌等を歌い懇親をするもので、地域支部も会長以下約20名で参加し、防大の制服を着て逍遙歌を歌い、参加者との懇親を図っています。

なお、経費については、先般本部より活動資金として預いたものを使用いたしましたことを申し添えます。

第3の事業としては、九州地区ミニ同窓会の実施であります。

昨年度の「同窓会だより」で報告しましたように、2ヶ月に1回事務局の幹事会を行つてきましたが今後の同窓会のあり方等についても活発な議論があり有意義であります。

最後に第4の事業である今年度の九州地区的総会は、平成12年2月12日（土）昨年同様に福岡市の八仙閣で行う予定ですので、九州地区の同窓会の皆さんのお出席をお待ちしております。

事務局長 道下富士雄

## 広島地区支部

事務局 総務 土手 義孝



防衛大学校広島地域同窓会（以下、「広島地域同窓会」という。）は、設立後2年余りになります。広島地域同窓会は、防衛大学校にしており、広島地域において、同窓生の結集を図り地域社会に貢献すると共に同窓生の相互扶助を強力に推進することにしています。

会員は、広島経済圏で活躍している230名余りの地域内に所在するOBと部隊等に勤務している現役自衛官で構成しています。

年間の活動

は、定期総会の他に春・秋季行事として登山、テニス、ゴルフ等を家族を含めて実施するよう計画しております。各種行事は、気楽な行事であり、OB・現役会員及び家族の皆様の積極的な参加を呼びかけています。

平成10年度の諸行事に対する会員及びその家族の参加実績は、定期総会、春・

秋季行事（登山、テニス、ゴルフ）の総参加者数は、延べ300名近くになり、毎年増加の傾向になっています。特に、会員家族の参加者が増加しており、会の活動の活性化に寄与しています。

平成11年度春季行事として陽春の4月に似島（広島市南方）の安芸小富士のハイキングを、新緑の5月にテニスを、またゴルフを開催しました。

参加者は、家族を含めてハイキングは20名余り、テニスは10名余り、ゴルフは小野寺第13旅団長、平野呂地方総監部幕僚長初め各部隊指揮官等現役8名、OB 15名及び協力会員13名計9組36名となり、春季行事はあわせて延べ70名余りが参加し、会員・家族及びOB・現役相互の親睦、情報交換等を行ない旧交を温めました。

なお、ゴルフコンペの成績は、優勝19期（空）坂田直文氏、第2位9期（陸）中田勝利氏、3位協力会員の方でした。

広島地域同窓会の諸行事は、盛況裏に実施中であり、地域同窓会としての基盤は、資金面を除き確立しつつあります。

現在、広島地域同窓会は、中部地域支部が設立されていないため、地域支部の代理的存続として活動しています。これらのことから現在のところ広島地域同窓会は、会員数及び活動実績等から本部で定める地域支部に匹敵する同窓会であると自負しています。

中部地域は、守備範囲が広く地域支部とは別に名古屋、大阪で広島と同じような地域同窓会設立の準備がなされておると聞いていますが……。

防衛大学校同窓会は、地域支部を通じて全国的に活動を広め一つの団体として力を付ける必要があり、早急に地域支部を整備・充実すると共に現在活動中の地域同窓会の活性化を図る施策が重要と思います。そしてそれらの為にも年度活動方針・施策の計画段階で地域支部（地域同窓会）の意見等を聞く場を設

## 関西地区支部

支部長 牧 次郎



定する等同窓会本部施策に期待するところ大なるものがあります。

同窓会本部の一層のご支援・ご指導をお願い致します。

なお、西暦2000年（平成12年）2月26日（土）呉阪急ホテル（JR呉駅前）で平成12年度定期総会・講演会・懇親会等を計画しております。講演会の講師として元統幕議長 佐久間一氏の招聘が計画されています。

同窓生各位の出席を心からお待ちしております。

「防衛大学校広島地域同窓会事務局」  
730-0014 広島市中区上幟町2-43

財自衛隊援護協会広島支部  
(退職自衛官無料職業紹介所)  
TEL・FAX 082-223-6900



「事務局連絡先」  
自衛隊援護協会大阪支部  
TEL・FAX 06-6910-6111

支部長 牧 次郎

総務 河野 光男

項目		12年度予算	11年度予算	11年度比
収入	会費(44期生)	19,740,000	22,560,000	-2,820,000
	角館金利息	330,000	1,190,000	-860,000
	広告代	未定	未定	
	同窓会名簿売上金	未定	未定	
	積立金からの繰入	2,340,000	0	2,340,000
	収入計	22,410,000	23,750,000	-1,340,000
支出	事業計画の推進(現職・OB会員交流)	1,000,000	1,000,000	0
	(同窓会主催親睦交流会開催)	300,000	500,000	-200,000
	(相談窓口の設置)	50,000	50,000	0
	(ホームページカミングデーの実施)	300,000		300,000
	(会員の出版支援)	50,000	50,000	0
	(防大卒業留学生との連携)	700,000	300,000	400,000
	(全国的な情報網の整備)	50,000	50,000	0
	総会/講演会費	2,500,000	2,500,000	0
	附生会支援費(48期生会助成)	100,000	100,000	0
	(44期生会助成)	100,000	100,000	0
	校友会对外活動助成費	1,000,000	1,000,000	0
	開校記念祭助成金	2,000,000	2,000,000	0
	顕彰牌献花費	600,000	600,000	0
	慶弔費(供花、弔電)	350,000	350,000	0
	職員誕生日退職者記念品費	100,000	100,000	0
支出	専用機材費	210,000	120,000	90,000
	電話・FAX維持費	500,000	500,000	0
	小原台事務局運営費	100,000	100,000	0
	代議員会運営費	700,000	700,000	0
	各期生会連絡調整費	0	300,000	-300,000
	機関紙発行費	3,300,000	3,300,000	0
	同窓会名簿維持費	200,000	200,000	0
	会長運営費	500,000	500,000	0
	事務員雇用費	2,000,000	2,000,000	
	本部事務局専用機材	2,800,000	2,750,000	50,000
	事務費	350,000	350,000	0
	通信費	150,000	150,000	0
	交通費	400,000	400,000	0
	会議費	500,000	500,000	0
	予備費	1,500,000	1,680,000	-180,000
	50周年記念事業委員会	0	1,500,000	-1,500,000
	支出計	22,410,000	23,750,000	-1,340,000

## 平成10年度 防衛大学同窓会決算報告

防衛大学同窓会会計監事

平成11年3月31日

(単位:円)

項目		予算	決算	実績
収入	会費(42期生)	21,063,000	22,216,580	
	角館金利息	1,377,000	1,345,321	
	広告代	0	624,580	
	同窓会名簿売上金	6,000,000	7,062,290	
	積立金からの繰入	4,940,000	0	
	収入計	33,380,000	31,248,771	
支出	事業計画の推進(現役・OB会員交流)	500,000	0	
	(同窓会主催親睦交流会開催)	300,000	166,445	
	(相談窓口の設置)	200,000	0	
	(ホームページカミングデーの実施)	500,000	0	
	(会員の出版支援)	200,000	0	
	(防大卒業留学生OBとの連携)	100,000	160,582	
	(全国的な情報網の整備)	200,000	0	
	総会費(会場設営費)	1,800,000	789,029	
	(被替費)	1,400,000	316,095	
	(会員費)	100,000	4,216	
	附生支援費(46期生会助成)	100,000	100,000	
	(42期生会助成)	100,000	100,210	
	校友会对外活動助成費	1,000,000	944,210	
	開校記念祭助成費	2,000,000	1,785,210	
	顕彰牌献花費	600,000	356,765	
	慶弔費(供花、弔電)	350,000	192,240	
	職員誕生日退職者記念品費	100,000	119,815	
	専用機材費	120,000	194,886	
	電話・FAX維持費	720,000	277,255	
	小原台事務局運営費	300,000	100,420	
	代議員会運営費	700,000	657,384	
	各期生会連絡調整費	500,000	0	
	機関紙発行費(直送)	800,000	988,000	
	(登録)	3,000,000	1,774,964	
	同窓会名簿発行費(直送)	6,000,000	7,347,690	
	(郵便番号変更)	1,350,000	336,545	
	(発行料内訳)	50,000	0	
	会長運営費	240,000	126,262	
	事務員雇用費	500,000	60,520	
	本部事務局専用機材	2,000,000	2,000,000	
	事務費	2,750,000	2,784,682	
	通じ費	250,000	156,849	
	交通費	250,000	47,155	
	会議費	300,000	185,190	
	予備費	500,000	91,167	
	50周年記念事業委員会	2,000,000	5,120,720	
	小計	1,500,000	1,500,420	■地区支那事務局支拂
	次年度繰入	33,380,000	28,784,926	■地区に提出
	支出計	33,380,000	31,248,711	



コマツは、長年にわたって培った豊富なノウハウと、最先端のトータルテクノロジーで、防衛システムをサポートしています。

## 【営業品目】

- 戦闘車両
- 施設車両
- 弾薬
- エンジン
- ロボット
- プレス
- レーザー機器
- 電子機器
- 地下掘削機械
- 海洋開発機器
- 建設機械

**KOMATSU** コマツ 特機事業本部  
〒107-8414 東京都港区赤坂2-3-6 TEL.03-5561-2740

## 防大同窓会総会・講演会 及び懇親会のご案内

平成11年度同窓会総会・講演会及び懇親会が下記のとおり開催されます。ご出席を賜りたくご案内申しあげます。

31

- |   |   |
|---|---|
| <b>1 日時</b>   | 平成12年3月14日（火） 16：30～20：15<br>(1) 総会 16：30～17：30<br>(2) 講演会 17：30～18：30<br>(3) 懇親会 18：45～20：15 |
| <b>2 場所</b>   | グランドヒル市ヶ谷 (03-3268-0111)<br>東京都新宿区市ヶ谷本町4-1  |
| <b>3 懇親会会費</b>  | 4,000円  |
| <b>4 連絡先</b>  | 防大同窓会本部事務局<br>(局 線：03-3351-8910 fax兼用)<br>(専用線：8-6-28895 fax兼用)                               |
| 参加される方は、同封の返信用葉書にて平成12年2月<br>15日（火）必着で申込み下さい<br>（なお、欠席の方は、返送不要です） |   |

## 平成11年度同窓会行事

●11月13日 顯彰碑獻花式

(於 防衛大學校)

同窓会長が執行者となり、校長はじめ学校職員と同窓生の各期代表者の参列を得て、同窓の英靈86柱のご冥福をお祈り申し上げました。

●12月7日 代議員会

(於 グランドヒル市ヶ谷)

讀書

- 1 平成10年度事業及び決算報告並びに財産目録
  - 2 平成11年度事業報告
  - 3 平成12年度事業計画及び予算案
  - 4 防衛大学校創立50周年記念事業報告
  - 5 会則の変更
  - 6 来年度の人事（理事・監事）

## 本部・事務局からのお知らせ

平成11年度同窓会本部役員

地方支部等役員（平成11年末現在）

未納入にお気づきの方は、郵便振込み（振込先：00130-6-766774防衛大学同窓会経理部）で送付して頂くようお願ひ致します。振込みの記憶が明らかでない方は、事務局にお問い合わせて頂ければ、送付・受領状況をお知らせ致します。

また、発行時に予備として印刷した名簿が若干残っていますので、希望者に名簿の再配布を行います。先着150名に限り受け付けますので、要員、階級、氏名、送付先を明記のうえ「FAX」又は「はがき」で申し込んで下さい。配付料2000円は、受領後お振込みとなります。なお、次回の同窓会名簿の発行は、平成15年を予定しています。

平成10年10月に発行した同窓会名簿は、これまでに約3800部を送付し、配送料の95パーセントを受領しました。この種の料金回収としては、高率と思われますが、平成11年本時点で、まだ納入されてない方があります。

名簿係よりお知らせ

東北地域支部	支部長・野山	貢 (3・陸)	場所・札幌市内
西部地域支部	支部長・阿部	賢吉 (3・陸)	場所・仙台市内
沖縄地域支部	支部長・中野	純人 (2・陸)	場所・福岡市内
関西地区支部	支部長・小西	忠 (1・海)	場所・那覇市内
広島地区支部	支部長・牧	次郎 (2・海)	場所・大阪市内
熊本地区支部	支部長・松浦	育郎 (1・陸)	場所・広島市内
宮崎地区支部	支部長・蘭山	清 (1・陸)	場所・熊本市内
本部直轄支部	支部長・竹之下憲弘	(1・陸)	場所・西都市内
小原台クラブ	支部長・菅沼	祐亨 (1・陸)	場所・市ヶ谷